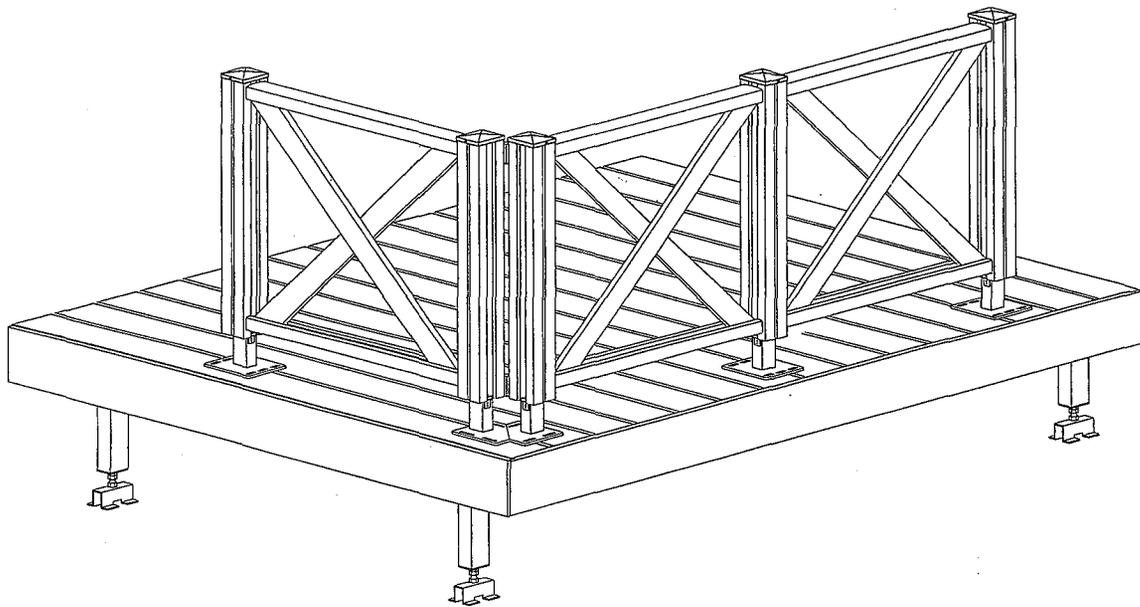


木樹脂[®]デッキ 組立施工マニュアル



目次

- 施工上のご注意 P 1
- 規格表・規格寸法図 P 2～4
- 束柱の位置 P 5～8

組立手順

- ① 束柱・根がらみの取付け P 9
- ② 標準束柱の固定 P 10
- ② 高さ調整の固定 P 11
- ③ デッキ材の取付け P 12
- ④ フェンスパネル・ハイパーテーションの取付け . . . P13～18
- ⑤ 鼻かくしの取付け P 19
- ⑥ 木樹脂テラスとの接続 P 20
- ⑦ 点検口の組立 P 21
- ⑧ 納まり図 P22～25
- ⑨ 施工工事店様、販売店様へのお願い P 26

この度は、新日軽の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
正しい施工をしていただく為このマニュアルをお読みください。
施工完了後はお施主様へお渡しください。

■ 安全にお使いいただくために必ずお守りください。

このマニュアルに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を示しています。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、次のような絵表示をしています。

絵表示	意味	絵表示	ご使用上の注意とお願い
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いを すると使用者が負傷する危険や物的損 害の発生することを表しています。		「必ず行なっていただくこと」を 示しています。

⚠ 注意

- デッキを大引に固定する皿ビスの頭が必ずデッキ面以下となるように施工してください。またビス部分に樹脂のささくれ等が発生した場合、必ずヤスリできれいにしてください。
- デッキ端部等でケガをしないように、軍手、安全靴を使用してください。
- デッキ上のフェンスや、ハイパーテーションに乗ったり、揺すったりしないでください。
- デッキ上のフェンスや、ハイパーテーションに雨具、洗濯物、布団等を載せないでください。

! 使用上のご注意について

- デッキ上のフェンス・ハイパーテーションに鉢等をかける場合は、1枚当り5kgを越えないようにしてください。
- 樹脂は弱酸、弱アルカリ、食塩水、アルコール（水でうすめたもの）には優れた抵抗性を持っていますが、濃酸、濃アルカリ、又シンナー、ベンジン等の有機溶剤や石油類は、使用しないでください。
- デッキの近くで殺虫剤、除草剤は使用しないでください。スプレータイプで石油系、フロン系の場合、接触すると変形、割れを生じることがあります。
- 樹脂は、微小火源では着火しにくくなっていますが、火気には十分にご注意ください。又、70℃以上になると変形しますので、近くで焚火をしたり高温のものを近付けたりしないでください。
- 表面が汚れた時は水洗いしてください。洗剤を使用する際は中性洗剤を水でうすめて使用し、よく水で洗い流して拭きとってください。

樹脂製品のお手入れ方法について

年に数回の水洗いと、空ぶきだけでも効果的です。ただし、工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。

汚れが軽い場合：やわらかい布かスポンジで水ぶきした後に空ぶきしてください。
汚れが目立つ場合：中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし洗剤が残らないように水洗いしてから空ぶきしてください。

「木樹脂」は新日軽の登録商標です。

施工上のご注意

新日軽のアルミ製品はJISの表面処理規定を十分クリアした製品をお届けしていますが、取扱によっては異常腐食を起こし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点に注意してください。

- (1) モルタル用に海砂を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますので、その使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。
- (2) モルタルやコンクリートの抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になりますので工事中に商品の表面に流れないように注意してください。
- (3) モルタルやコンクリートの急結剤は腐食の発生や促進作用がありますのでその使用を避けていただくか、塩化カルシウムや塩素系の化合物・硅酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。
- (4) 施工時に商品の表面に付着したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、アルミ表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。
- (5) アルミ製品と異種金属が接触しないようにしてください。接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。
- (6) 腐食の恐れのある接着剤や化学薬品を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。
- (7) 輸入木材には塩素イオン等の腐食成分が多く含まれているものがありますので、その使用を避けていただくか、アルミと接触する部分には木材に塗装するようにしてください。
- (8) 柱内部にモルタルやコンクリートが入らないように施工時に注意してください。
- (9) 基礎施工の際は地下の埋設物にご注意ください。また寒冷地はその地域にあった基礎工事をしてください。
- (10) 地盤が軟弱な場合は、柱の埋め込み深さ、フーチングの大きさを考慮してください。

* 汚れ、ホコリが付着した場合には、軽く水で流すかテープ等の接着面で軽くたたくようにしてください。

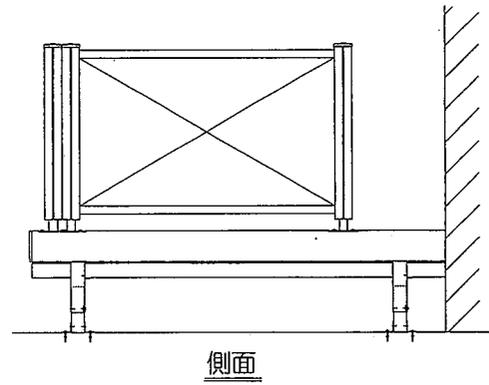
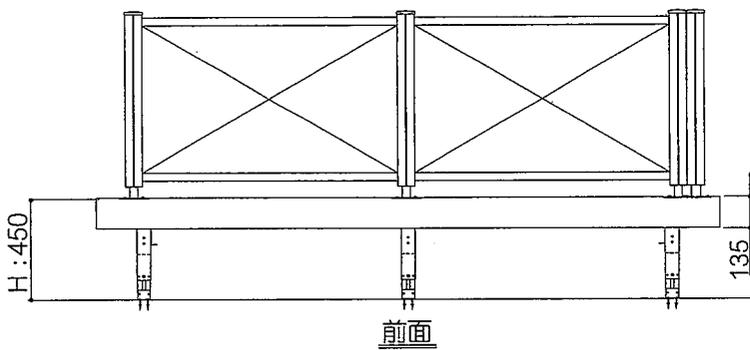
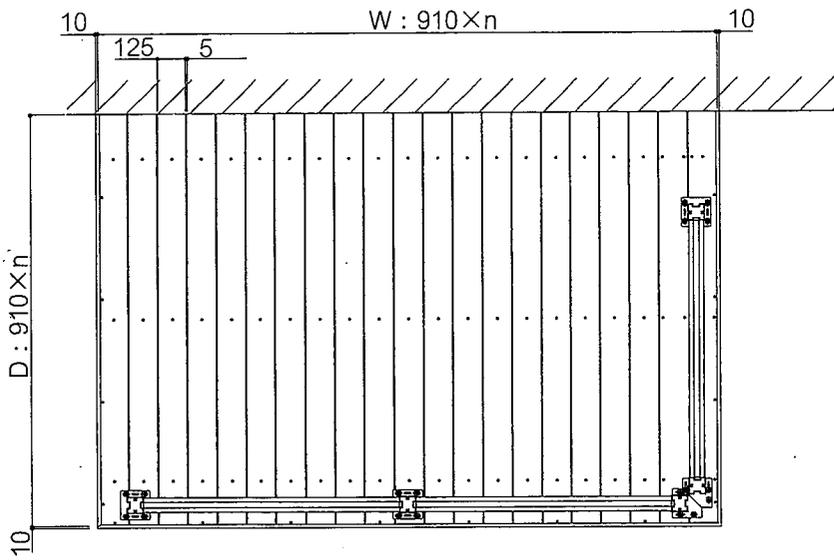
規格表・規格寸法図

製品名称		梱包内容
デッキ材	1.0間 2本入り	デッキ材L=1820(125×30):②
	1.0間 3本入り	デッキ材L=1820(125×30):③
	1.5間 2本入り	デッキ材L=2730(125×30):②
	1.5間 3本入り	デッキ材L=2730(125×30):③
	デッキ材取付ビスセット	ビスセット(皿セルフドリリングビス①5×50)70本、取付け施工マニュアル
鼻かし	1.0間	鼻かし材L=1840:①、セット部品(SB-1530-01):①(十字穴付皿木ネジφ5.1×55:⑥)
	1.5間	鼻かし材L=2750:①、セット部品(SB-1530-02):①(十字穴付皿木ネジφ5.1×55:⑥)
階段材		階段材L=880(125×30):③、鼻かし材L=900:①、L=385:②、セット部品(SB-1546):①(十字穴付皿木ネジφ5.1×55:⑥、皿セルフドリリングビスφ5×50:⑥)
フェンス用柱	H=800用(間柱)	H=800用間柱:①、セット部品(SE-1290-01):①(六角ボルトφ6×50:④、M6用ナット:④、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:④、裏板:②)
	H=800用(コーナー柱)	H=800用コーナー柱:左右各①、セット部品(SE-1290-02):①(六角ボルトφ6×50:⑥、M6用ナット:⑥、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:⑥、柱付金物:②、φ4×19セルフドリリングビス:⑥)
	H=1800用(間柱)	H=1800用間柱:①、セット部品(SE-1290-01):①(六角ボルトφ6×50:④、M6用ナット:④、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:④、裏板:②)
	H=1800用(コーナー柱)	H=1800用コーナー柱:左右各①、セット部品(SE-1290-03):①(六角ボルトφ6×50:⑥、M6用ナット:⑥、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:⑥、柱付金物:③、φ4×19セルフドリリングビス:⑥)
	控え柱うで木	H=1800用控え柱うで木:②、セット部品(SE-1300-01):①(控えうで木ブラケット:④φ4×16トラスタッピング3種:⑥、φ4×30セルフドリリングビス:⑥)
	H=800用(コーナー柱:右)	H=800用コーナー柱(右):①、セット部品(SE-1290-04):①(六角ボルトφ6×50:③、M6用ナット:③、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:③)
	H=800用(コーナー柱:左)	H=800用コーナー柱(左):①、セット部品(SE-1290-04):①(六角ボルトφ6×50:③、M6用ナット:③、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:③)
	H=1000用(間柱)	H=1000用間柱:①、セット部品(SE-1290-05):①(六角ボルトφ6×50:④、M6用ナット:④、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:④)
	H=1000用(コーナー柱:右)	H=1000用コーナー柱(右):①、セット部品(SE-1290-04):①(六角ボルトφ6×50:③、M6用ナット:③、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:③)
	H=1000用(コーナー柱:左)	H=1000用コーナー柱(左):①、セット部品(SE-1290-04):①(六角ボルトφ6×50:③、M6用ナット:③、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:③)
	H=1800用(コーナー柱:右)	H=1800用コーナー柱(右):①、セット部品(SE-1290-04):①(六角ボルトφ6×50:③、M6用ナット:③、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:③)
	H=1800用(コーナー柱:左)	H=1800用コーナー柱(左):①、セット部品(SE-1290-04):①(六角ボルトφ6×50:③、M6用ナット:③、M6用角ワッシャー:⑥、M6用スプリングワッシャー:③)
	H=1800用(埋込み柱)	H=1800用埋込み柱:①、セット部品(SE-1314-01):①(デッキ材受け:①、M5×50皿セルフドリリングビス:④、φ4×16セルフドリリングビス:⑥、柱下部カバー:②)
	コーナー接続部品	コーナー接続部品:③、φ4×19セルフドリリングビス:⑥
	テラス接続部品	テラス接続カバー:RL各①、テラス接続カバーキャップ:①デッキ材受:②、φ4×25セルフドリリングビス:④、φ5×50セルフドリリングビス:⑥

◆ 規格表

製品名称		梱包内容	
大 引	0.5間	大引 L=910 ②	セット部品 (SB1328-01) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑤
		大引 L=910 ③	セット部品 (SB1328-02) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑦
	1.0間	大引 L=1820 ②	セット部品 (SB1328-01) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑤
		大引 L=1820 ③	セット部品 (SB1328-02) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑦
	1.5間	大引 L=2730 ②	セット部品 (SB1328-01) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑤
		大引 L=2730 ③	セット部品 (SB1328-02) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑦
	2.0間	大引 L=3640 ②	セット部品 (SB1328-01) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑤
		大引 L=3640 ③	セット部品 (SB1328-02) Φ5×50皿セルフドリリングネジ⑦
束 柱	標準柱 (高さ調整)	束柱 L=333 ②	セット部品 (SB3442-01) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑤ Φ5×16セルフドリリングネジ⑧
		束柱 L=333 ③	セット部品 (SB3442-02) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑦ Φ5×16セルフドリリングネジ⑩
	長柱 (高さ調整)	束柱 L=533 ②	セット部品 (SB3442-01) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑤ Φ5×16セルフドリリングネジ⑧
		束柱 L=533 ③	セット部品 (SB3442-02) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑦ Φ5×16セルフドリリングネジ⑩
	長柱 (埋込)	束柱 L=728 ②	セット部品 (SB1329-01) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑤ アンカー棒②
		束柱 L=728 ③	セット部品 (SB1329-02) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑦ アンカー棒③
根 が ら み	0.5間	根がらみ L=910 ②	セット部品 (SB1329-02) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑭
	1.0間	根がらみ L=1820 ②	セット部品 (SB1329-03) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑯
	1.5間	根がらみ L=2730 ②	セット部品 (SB1329-04) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑰
	2.0間	根がらみ L=3640 ②	セット部品 (SB1329-05) トラスタッピン3種Φ5×16 ⑱

■ 基本モジュール



◎ 間口 : W

間別 サイズ	W
0.5間	910
1.0間	1820
1.5間	2730
2.0間	3640

◎ 奥行 : D

間別 サイズ	D
0.5間	910
1.0間	1820
1.5間	2730
2.0間	3640

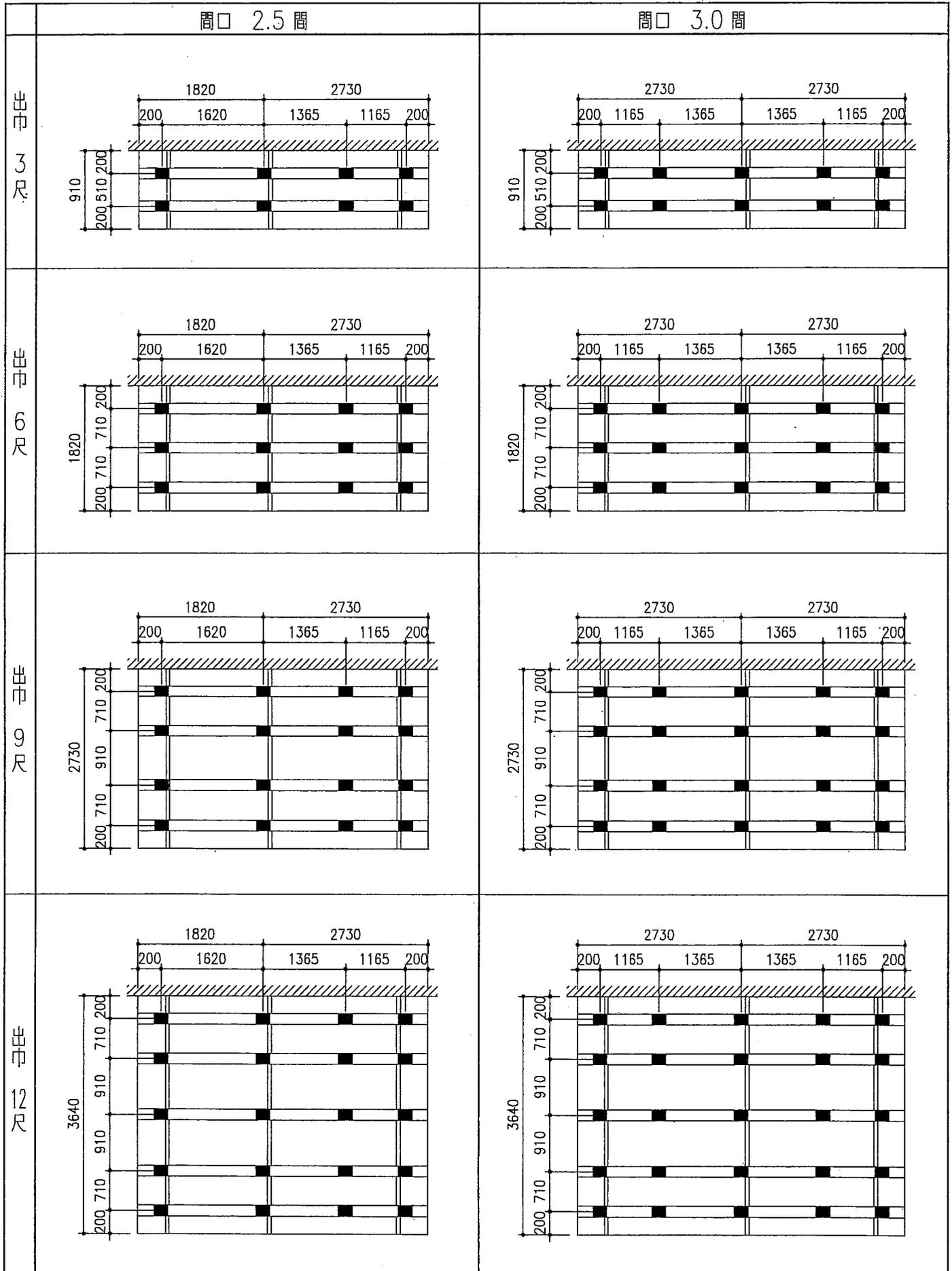
◎ 高さ : H

奥行 H	標準柱仕様	長柱仕様
	450	650

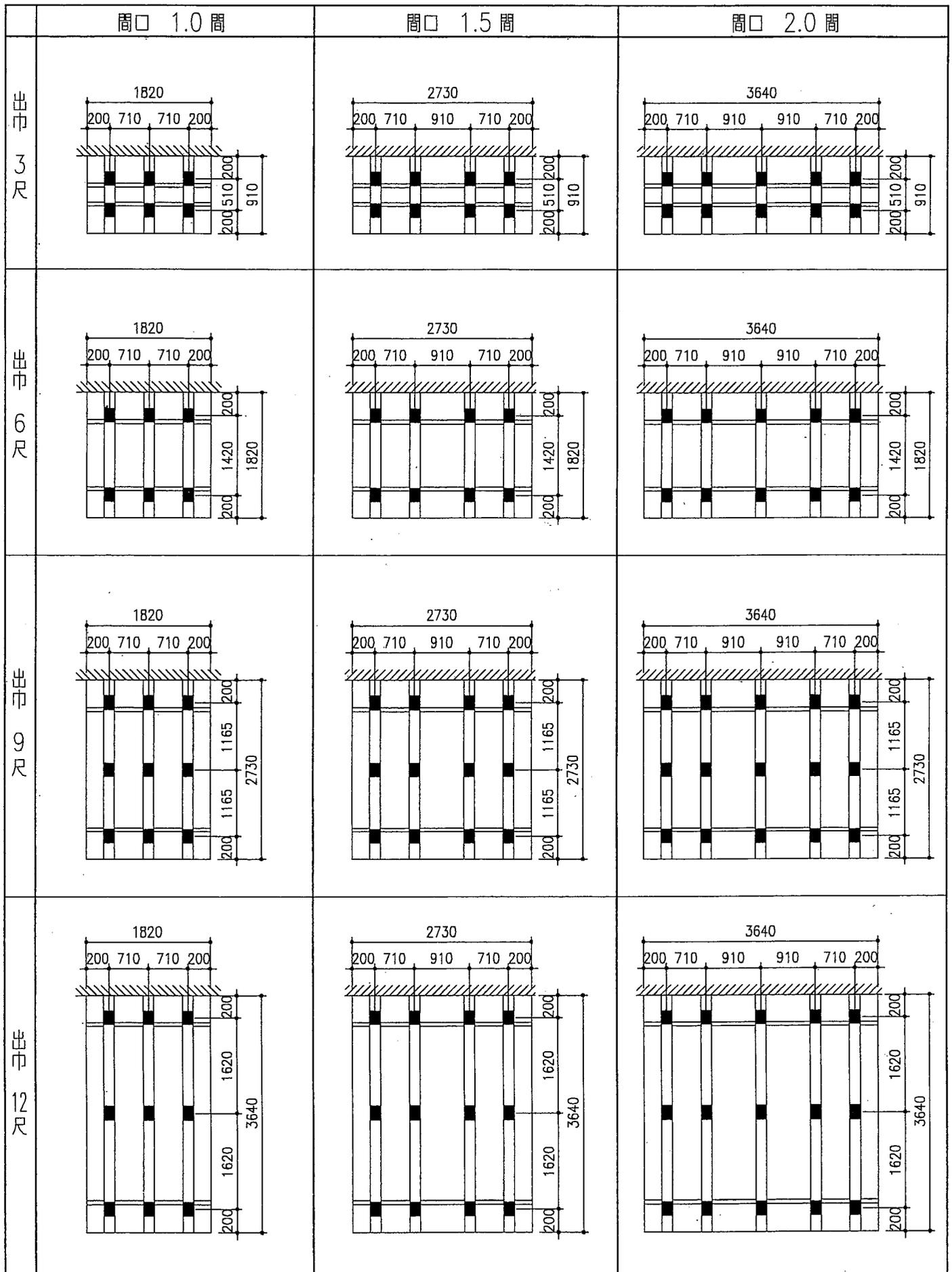
◆東柱の位置 (デッキ材たて張り 単体)

	間口 1.0 間	間口 1.5 間	間口 2.0 間
出巾 3 尺			
出巾 6 尺			
出巾 9 尺			
出巾 12 尺			

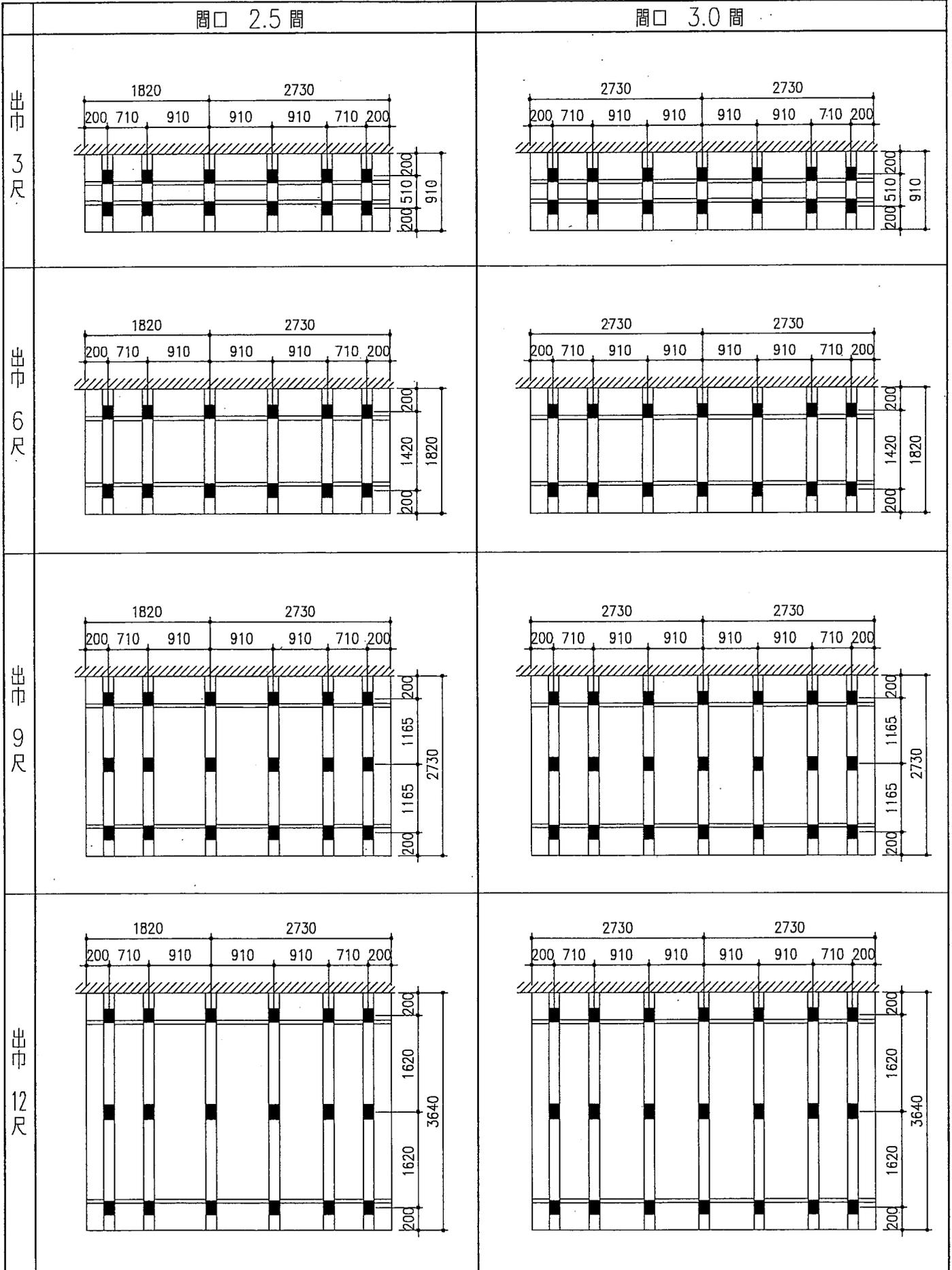
◆束柱の位置 (デッキ材たて張り 連棟)



◆東柱の位置 (デッキ材よこ張り 単体)



◆束柱の位置 (デッキ材よこ張り 連棟)



◆組立手順

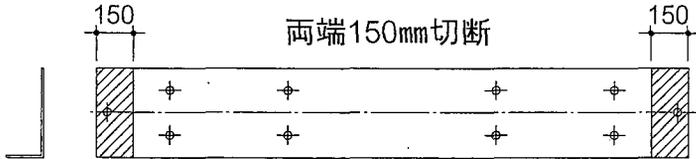
1 束柱・大引・根がらみの取付け

1) 束柱・大引の取付け

ページ5～8までの割付図を参照して根太と束柱を組立てください。
大引の孔加工の位置に合わせ、φ5×16トラスの取付ビスで束柱を大引に固定してください。

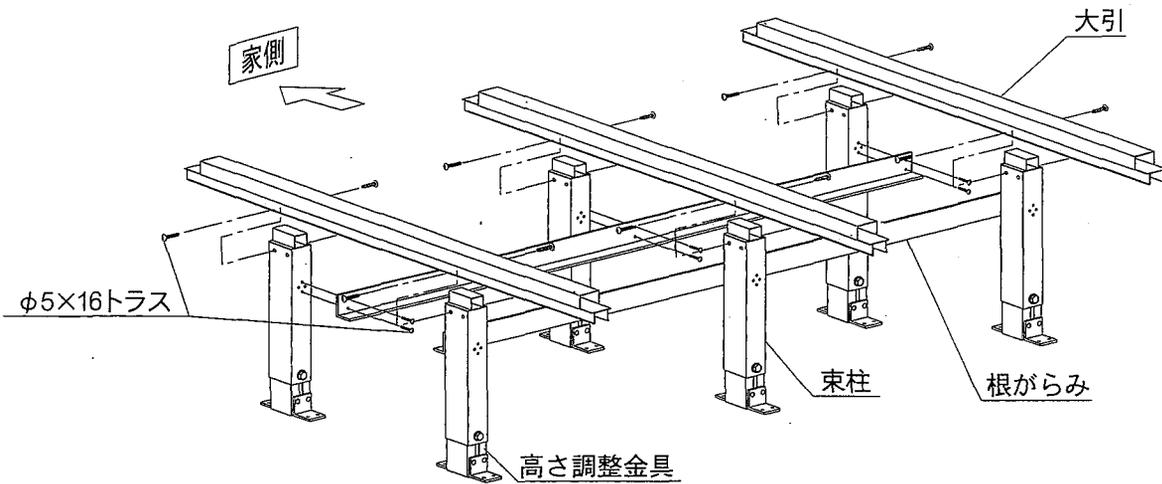
(注！束柱は、連棟を考慮した孔加工になっています。
通常の取付けでは、中央の孔を利用し大引へ取付けてください。)

2) 根がらみは、連棟を考慮した部材長さになっているため、下図の加工図を参考に切断を行ってください。次に、全体の左右(連棟する場合は連棟部にも)の束柱へφ5×16トラスで取付けをしてください。

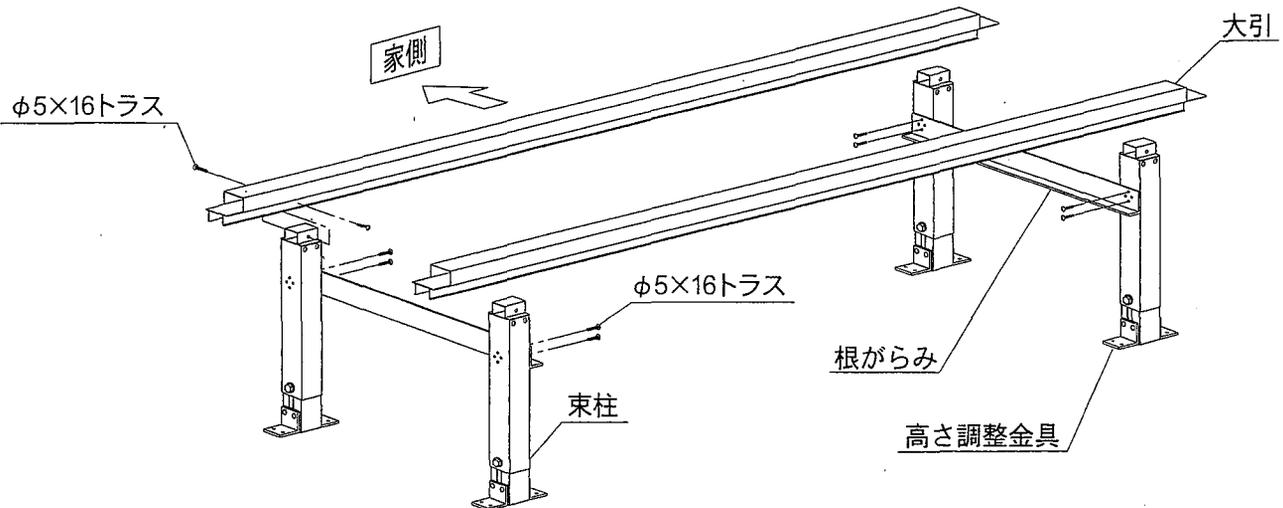


(注！連棟の場合は、片側のみ150mm
切断してください。)

〈デッキ材よこ張り〉 ※デッキ用フェンス(W910・W640)を用いてパネルを切りつめせずに納める場合は、大引き・デッキ材をP5～8の規格寸法で必ず納めてください。



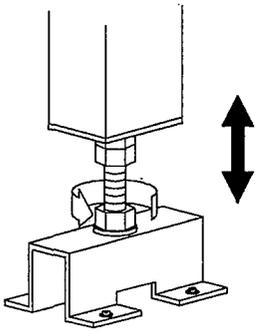
〈デッキ材たて張り〉



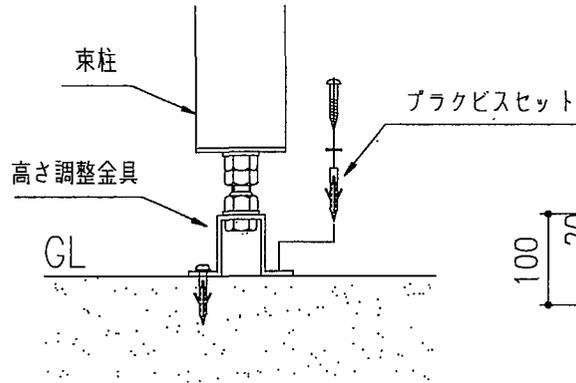
② 標準束柱の固定

1) 現場の状況に合った取付方法で束柱を右図のように固定してください。

2) 束柱を固定してから高さ調整が必要な場合は、下のナットを回転させ、上下の調整を行ってください。

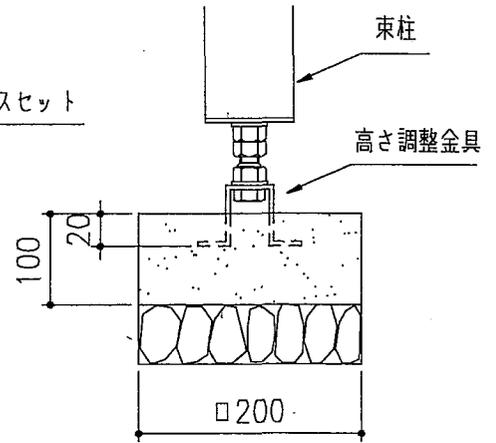


〈アンカー止めの場合〉



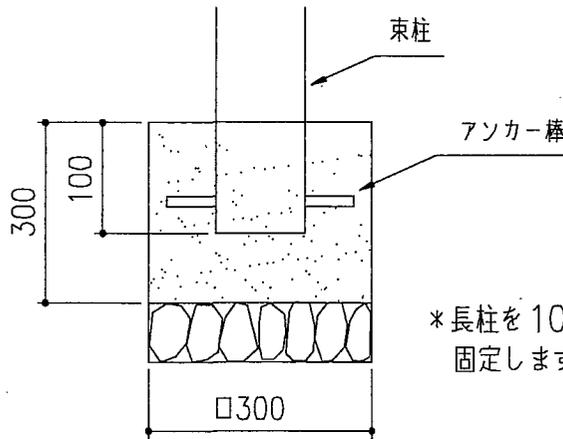
*土間の上に直接置きφ6の下孔を明けブラグビスセットで固定します。

〈埋め込みの場合〉



*高さ調整金具を途中まで埋め込み固定します。

〈長柱の場合〉

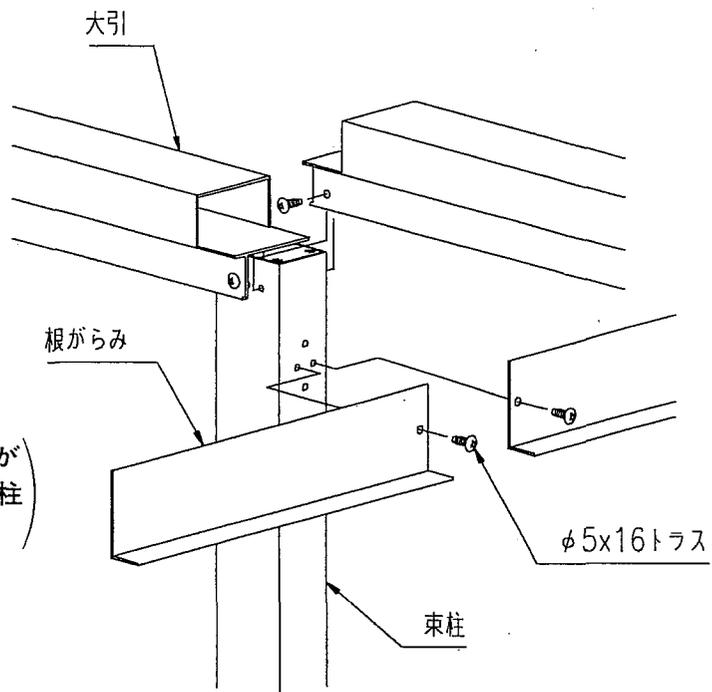


*長柱を100mm埋め込み固定します。

〈大引・根がらみの連結〉

●大引・束柱・根がらみにあらかじめ明いている孔加工を利用し、φ5x16トラスで取付してください。

(注！連棟の場合は、大引の連結部に束柱がきます。P6 P8を参考にして、束柱の立つ位置に注意してください。)

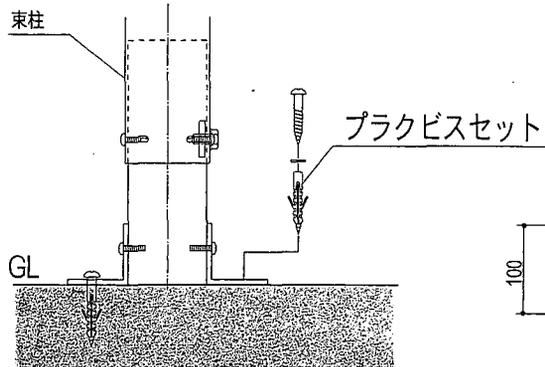


② 高さ調整束柱の固定

1) 現場の状況に合った取付方法で束柱を右図のように固定してください。

2) 束柱の高さ調整
束柱を固定してから高さ調整が必要な場合は、六角ボルトをゆるめ高さを調整してください。高さが決まれば六角ボルトを本締めし、セルフドリリングネジφ5×16で固定してください。

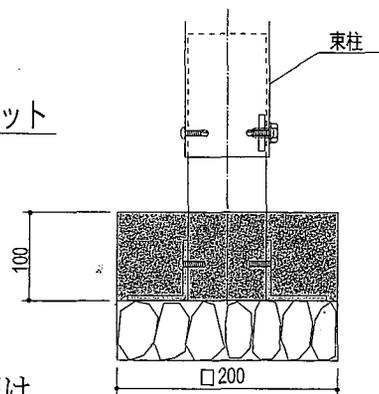
＜アンカー止めの場合＞



* 土間の上に直接置きφ6の下孔を明けプラグビスセットで固定します。

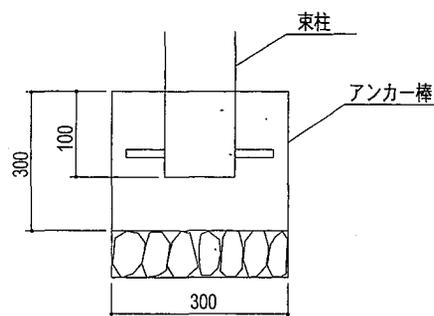
・セルフドリリングネジφ5×16で固定

＜埋め込みの場合＞

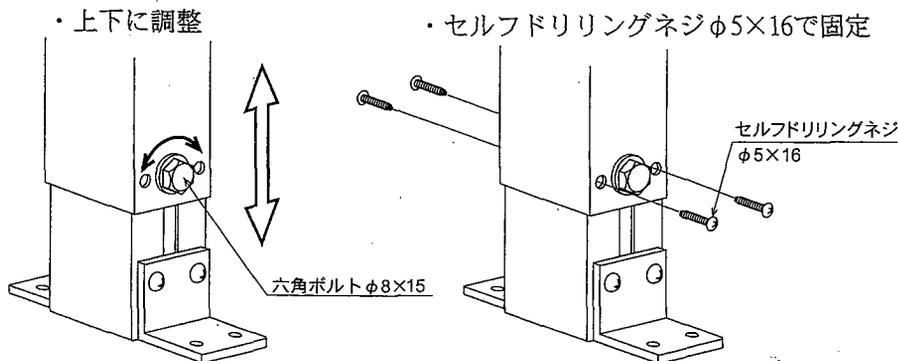


* 高さ調整金具を途中まで埋め込み固定します。

＜埋込み長柱の場合＞



* 長柱を100mm埋め込み固定します。

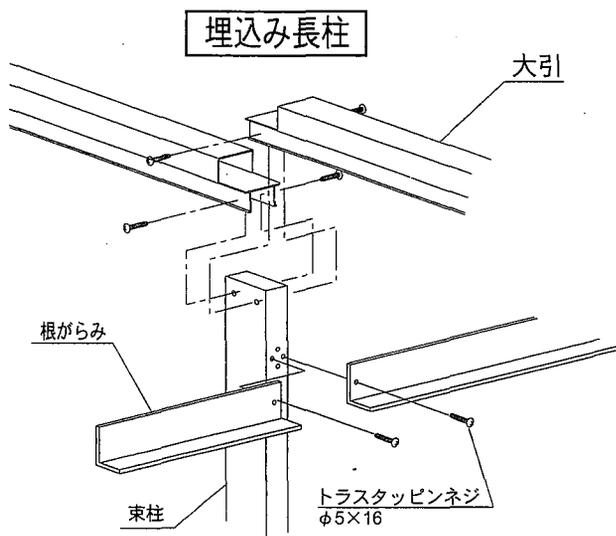
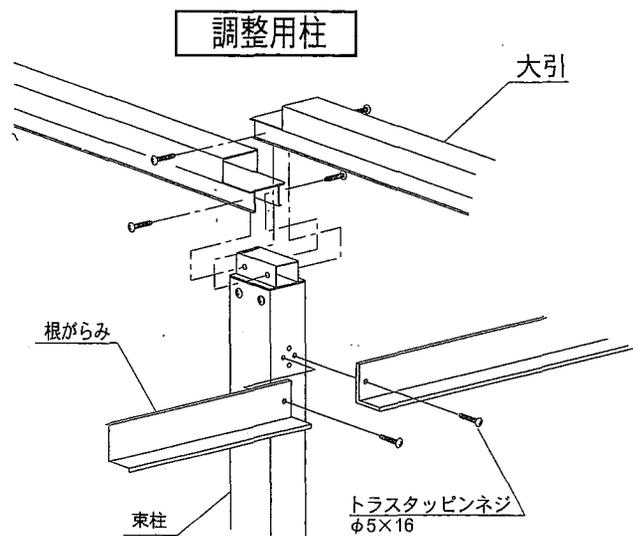


* 注) 高さ調整は上下50mmづつ可能ですが、それ以上延ばすと強度上問題があります。次に示す高さ以上にはしないでください。
標準束柱：GLからデッキ面まで 500mm
長束柱：GLからデッキ面まで 750mm

(ただし、上記の寸法は土間の上に直接束柱を置いた時の寸法です。)

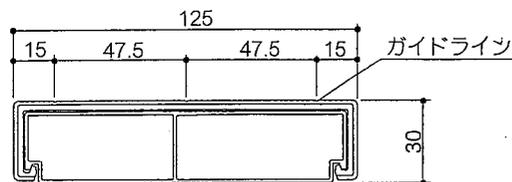
＜大引・根がらみの連結＞

● 大引・束柱・根がらみにあらかじめ明いている孔加工を利用し、φ5×16トラスで取付してください。



(注! 連棟の場合は、大引の連結部に束柱がきます。P5~P8を参考にして、束柱の立つ位置に注意してください。)

注) デッキ材には、ビス打ち用にガイドラインが3本ついてます。ビスを打つ時は必ずそのライン上に、打つようにしてください。



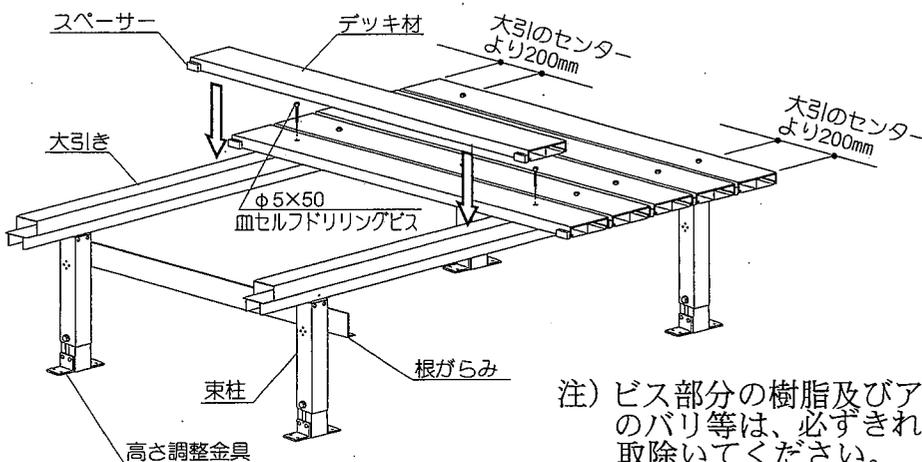
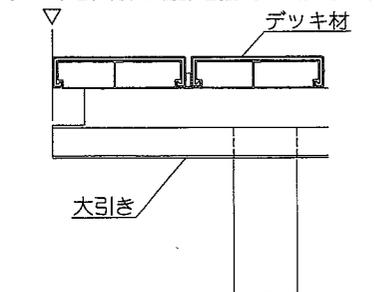
3. デッキ材の取付け

① デッキ材を大引上に敷き詰め、皿セルフドリリングビスφ5×50で大引に取付けます。デッキ材の両端には、厚さ5mmのスペーサーが目地出し用に片側だけ付いています。次のデッキ材をスペーサーに当てて取付けることにより、デッキ間には5mmの目地が正確に出せます。デッキをビスで固定する際は、必ず下記の手順に従って行ってください。

木樹脂デッキは、出巾や間口巾によって切断する必要があります。

注) デッキ材の両端についているスペーサーは、取付ける際の目安です。はじめにデッキを大引の上にならべて、目地を調整してからデッキを固定してください。

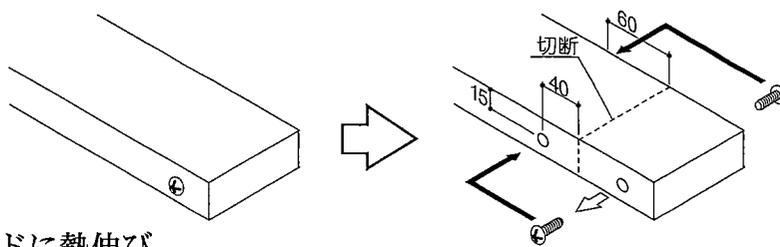
デッキと大引の端部を揃えてください。



注) ビス部分の樹脂及びアルミのバリ等は、必ずきれいに取除いてください。

注) デッキを切断する場合

デッキの端部には、両端部、両サイドに熱伸びをおさえるためのビスがあります。デッキを切断して使用する場合、切断した長い方のデッキ材端部に上図の寸法の位置へビスをつけかえてください。デッキを途中で切断し、2本とも使用する場合は、ビスを移動せず切断面を鼻かくし側にしてください。



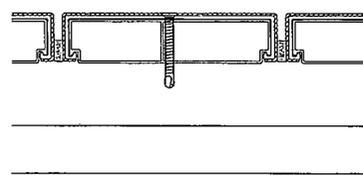
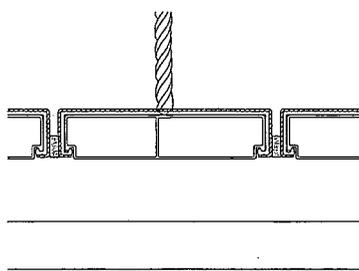
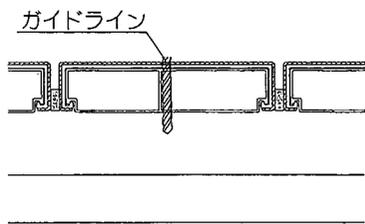
注) デッキ材を大引に固定する時は、必ず下図の手順に従って取付けてください。

1) デッキのセンターにはビスを打つためのガイドラインがあります。そのラインに向かってデッキと大引にφ4の貫通孔を明けてください。

2) デッキ材表面の樹脂部分のみφ9のざぐり加工をしてください。

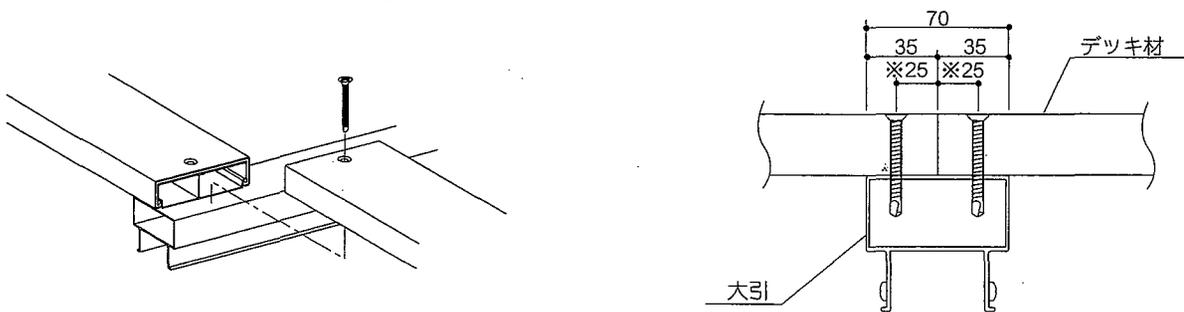
3) 皿セルフドリリングビスでデッキ材を固定してください。

注) ケガの原因となりますので、ビスの皿頭がデッキ面と水平になっていることを確認してください。



デッキ材の連結

デッキ材の連結は、必ず大引のまん中で行うようにしてください。
 デッキ材にはφ4の貫通孔及び、φ9のざぐり加工を行い下図のように皿セルフドリリングビスで取付けてください。



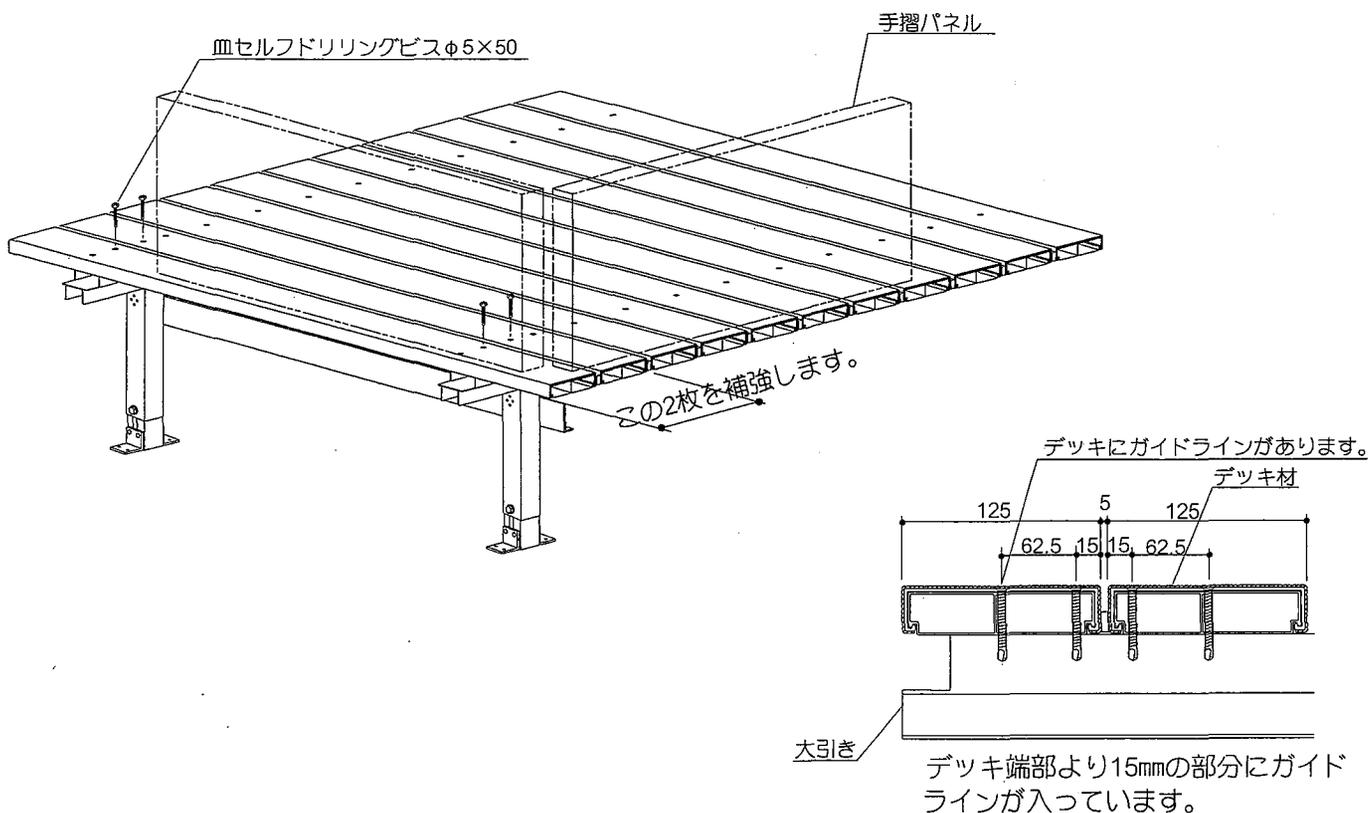
注) ※デッキ材端部からのビス位置は、必ず25mm以上となるように打ち込んでください。ビスが端部に近いと、樹脂カバーが割れるおそれがあります。

4. フェンスパネル・ハイパーテーションの取付け(H:800、1000、1800)

注) フェンスパネル・ハイパーテーションを取付けない場合は、「5. 鼻かくしの取付け」へお進みください。

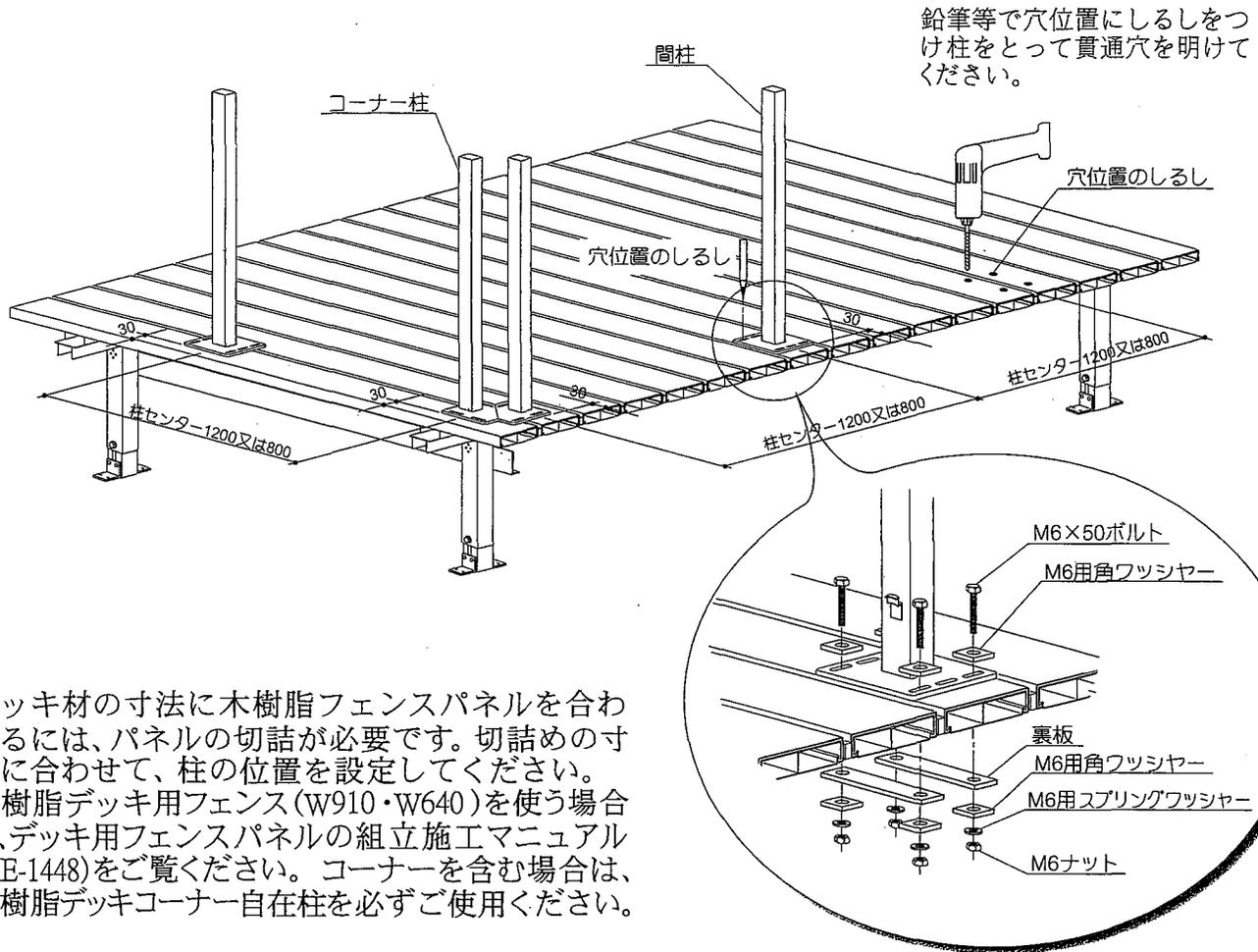
1) デッキ材の補強

フェンス、ハイパーテーションを取付ける際、柱のベースプレートが取付くデッキの端部から1枚目と2枚目を補強します。
 フェンスを取付ける部分のデッキ材を皿セルフドリリングビスφ5×50で大引にさらに固定します。
 ビスを打ち込む時は下穴を明け、樹脂部のざぐり加工を必ず行ってください。



2-1) フェンス用柱の取付け(柱高さ800mm及び1800mm控え柱付きの場合)

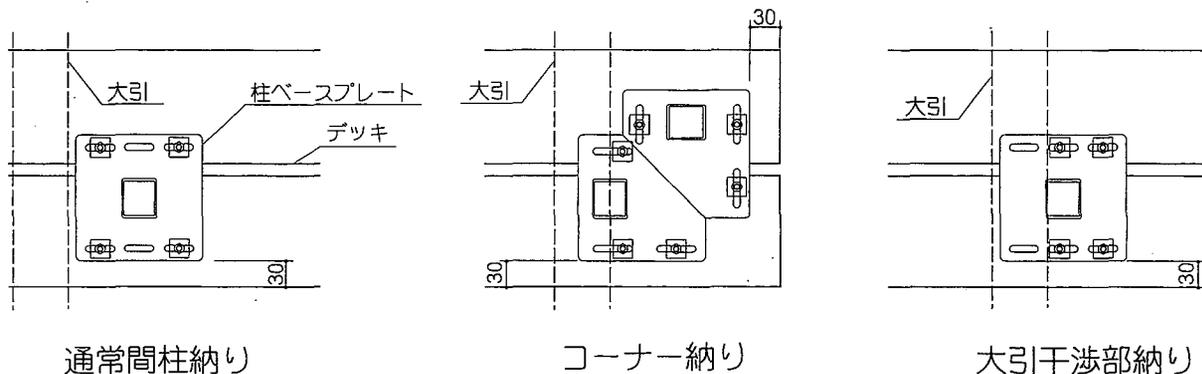
柱センター間で、フェンスパネルは1200mm、ハイパーテーションは800mmとなります。それぞれの位置に柱を取付けてください。デッキ材にφ8の貫通孔を明け、柱を4本(コーナーは3本)のボルトM6×50、M6用平角ワッシャー、スプリングワッシャー、ナット、裏板、にて固定します。コーナー部には、裏板はありません。柱のベースプレートには、大引をよけるために、ルーズ穴が明いています。次図に従って貫通穴の位置を決めてください。



- 注) デッキ材の寸法に木樹脂フェンスパネルを合わせるには、パネルの切詰めが必要です。切詰め寸法に合わせて、柱の位置を設定してください。
- 注) 木樹脂デッキ用フェンス(W910・W640)を使う場合は、デッキ用フェンスパネルの組立施工マニュアル(ME-1448)をご覧ください。コーナーを含む場合は、木樹脂デッキコーナー自在柱を必ずご使用ください。

注) コーナーに、デッキコーナー自在柱を使う場合は、コーナー自在柱の中の組立施工マニュアル(ME-1424)をご覧ください。

注) 柱は、必ずデッキ端部より30mm内側に入った位置に取付けてください。また、大引部やコーナー部ではボルト用の貫通穴が明かない場合があります。柱ベースプレートにある6ヶ所のルーズ穴を利用して、ボルトの止められる位置に貫通穴を明けてください。(必ず裏板、角ワッシャーの入るような位置に穴を明けてください。)

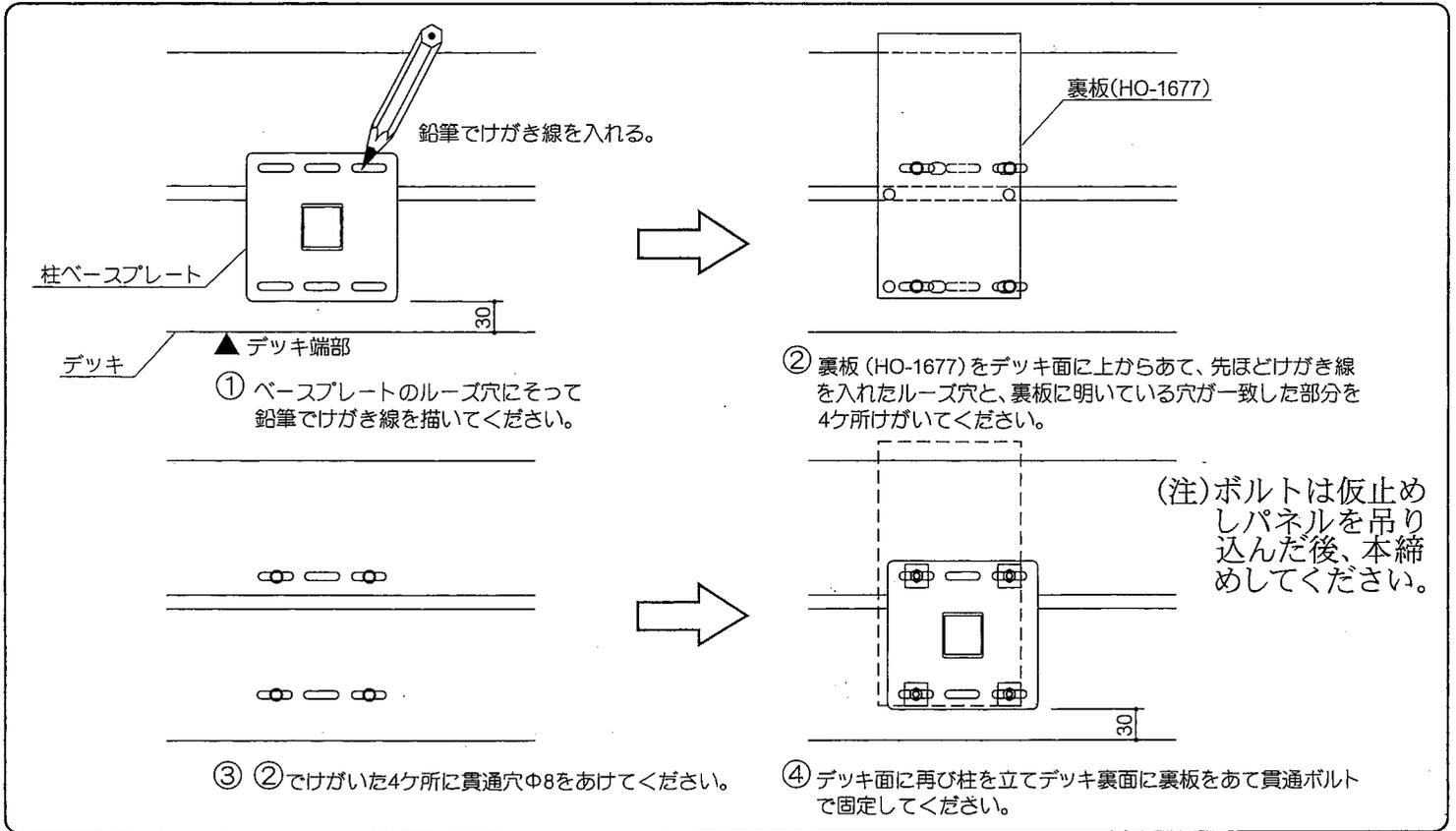


2-2) フェンス用柱の取付け(柱高さ1000mmの場合)

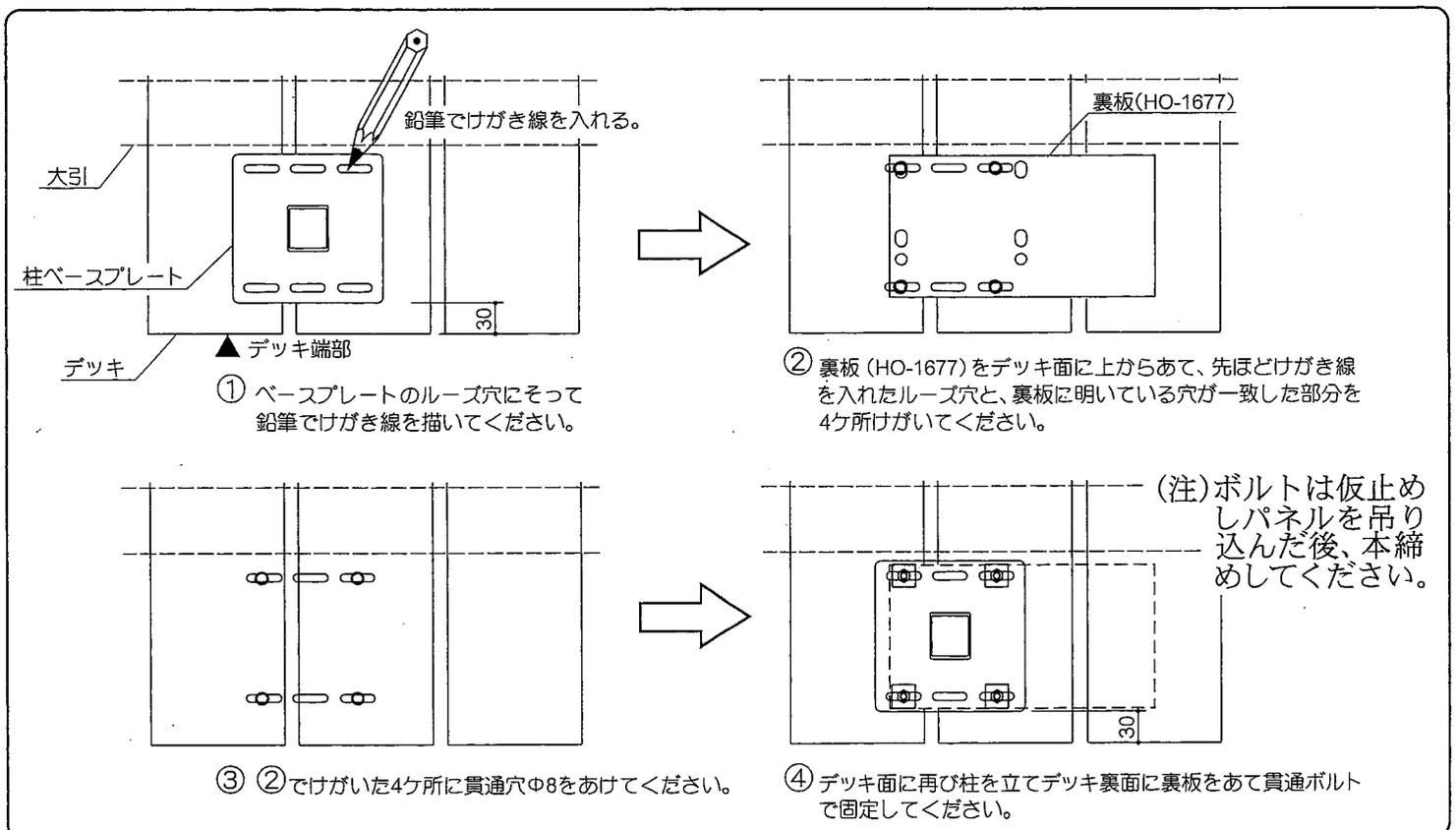
柱センター間で、1200mmとなります。

それぞれの位置に柱を取付けてください。デッキ材にφ8の貫通孔を明け、柱を4本(コーナーは3本)のボルトM6×50、M6用平角ワッシャー、スプリングワッシャー、ナット、裏板、にて固定します。コーナー部には、裏板はありません。柱のベースプレートには、大引をよけるために、ルーズ穴が明いています。次図に従って貫通穴の位置を決めてください。

• デッキとフェンスパネルが平行に納まる場合。



• デッキとフェンスパネルが垂直に納まる場合。

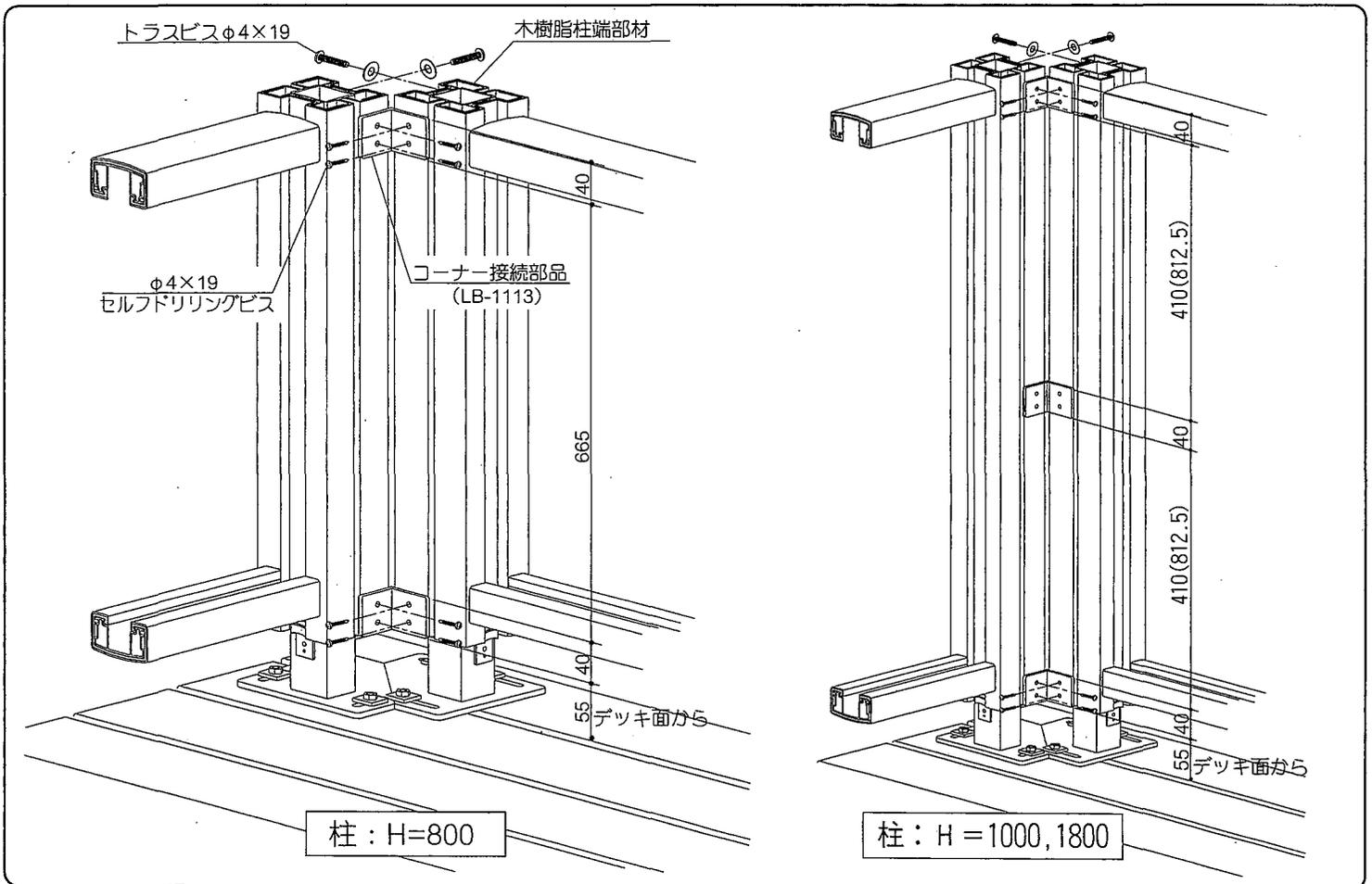


3) パネル及び柱端部材の取付け

注) パネルの取付け及び切詰め、端部材の取付けは、木樹脂フェンスパネル内の組立施工マニュアル (ME-1338) をご覧ください。

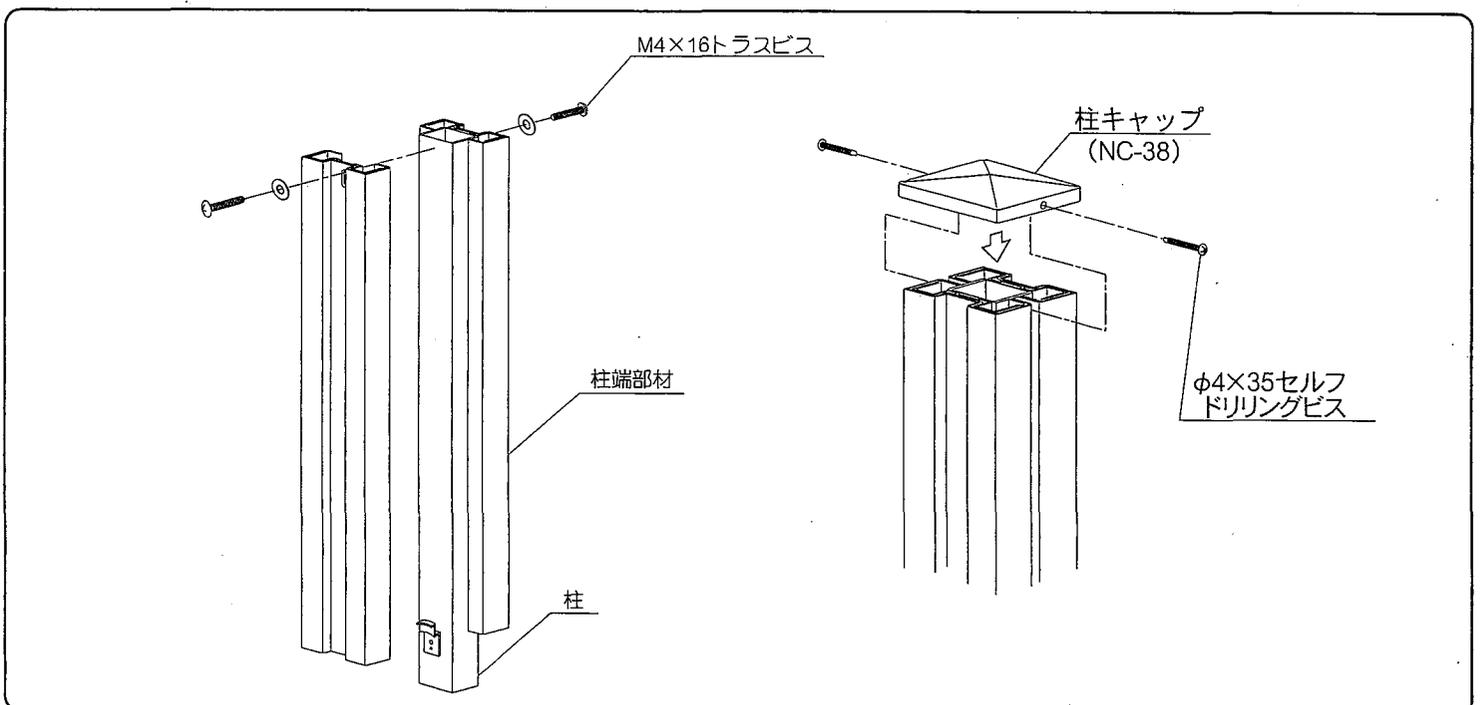
4) コーナー部材の取付け

コーナー部には、柱末端部材をそれぞれ取付け、コーナー柱連結金物にて2本のコーナー柱をφ4×19セルフドリリングビスにて固定します。



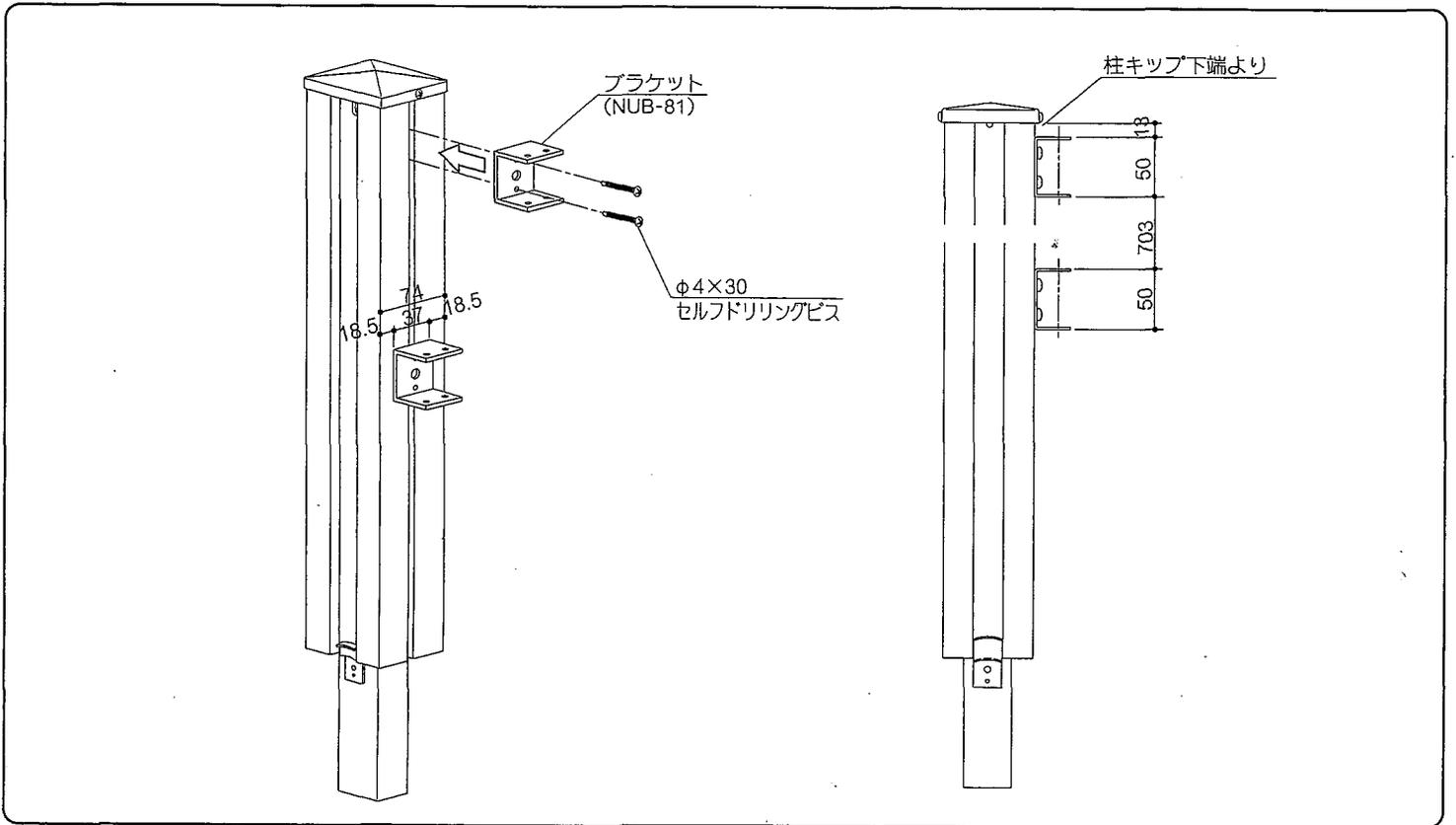
5) 控え柱の組立て

ハイパーテーション用の控え柱は、2スパンの両側に必要です。また、コーナー部に控え柱はありません。木樹脂フェンス用柱 (H18) に、柱端部材をM4×16トラスビス、M4平座金にて取付け、柱キャップをM4×35セルフドリリングビスにて固定してください。



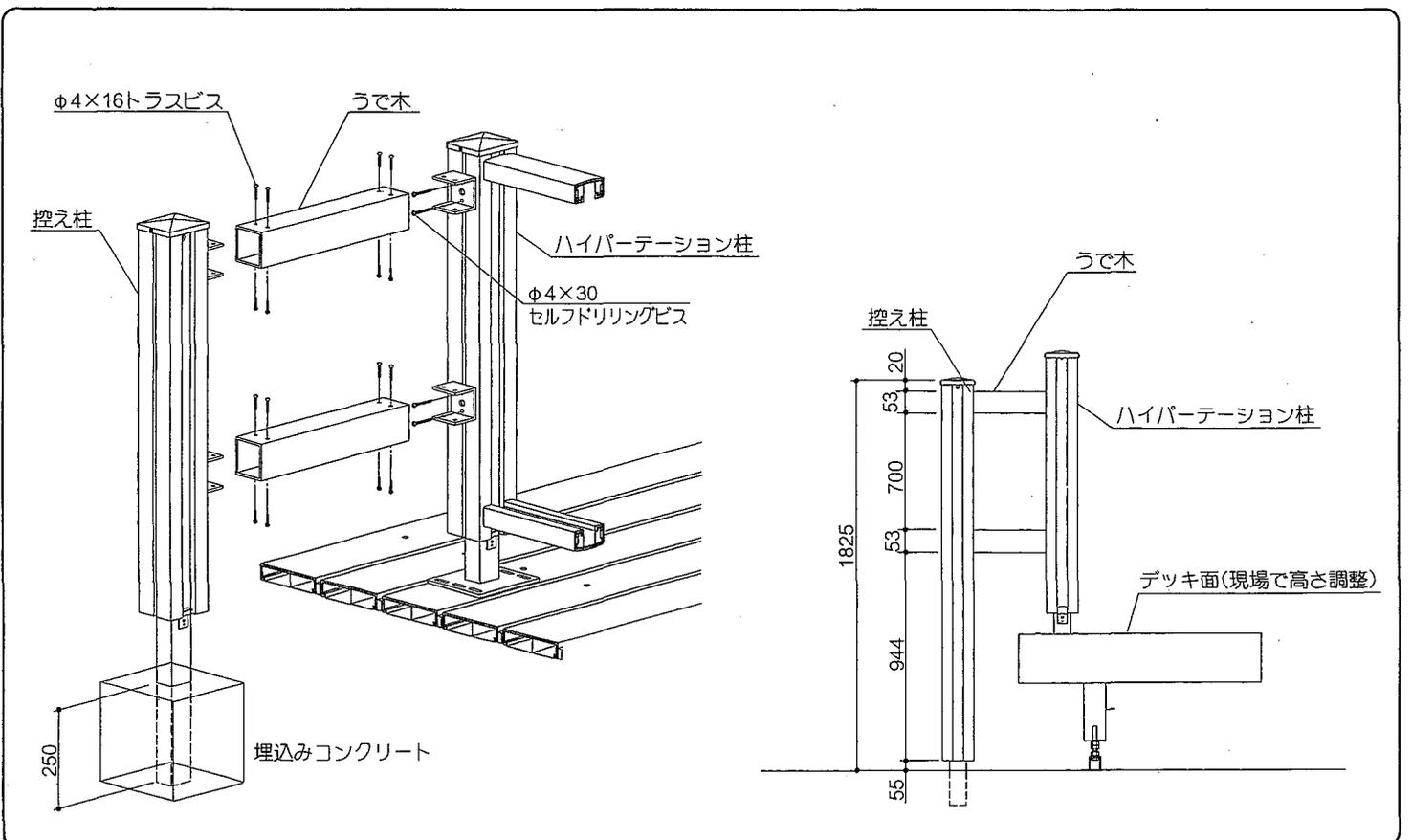
6) 控え柱へのブラケット取付け

控え柱にブラケット(NUB-81)をφ4×30セルフドリリングビスにて取付けます。



7) 控え柱うで木の取付け

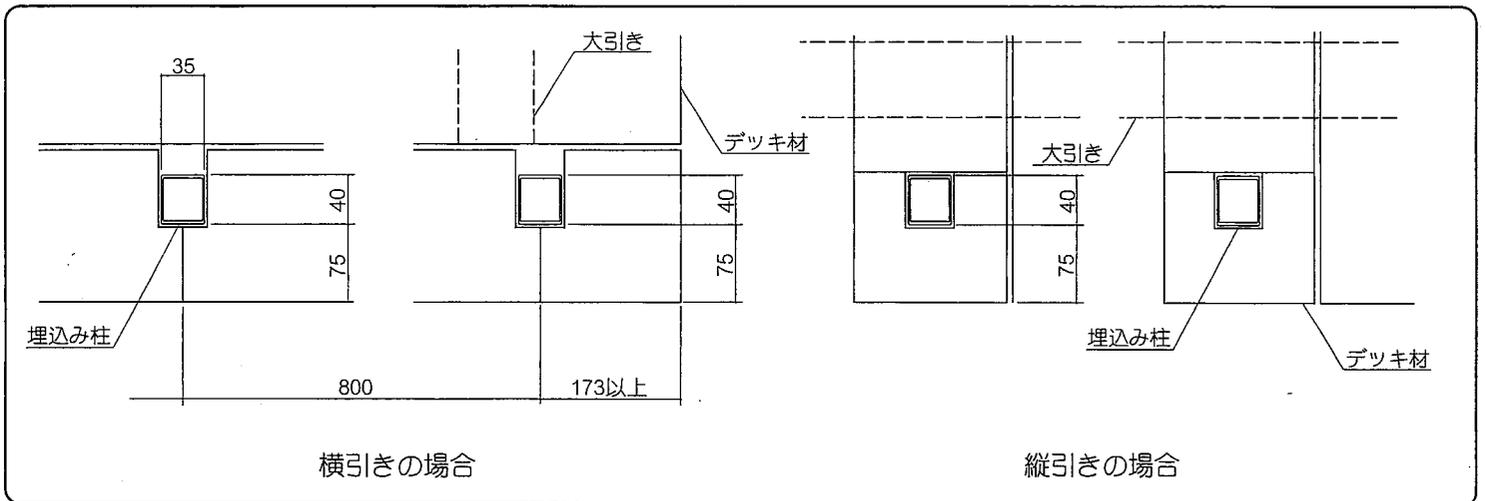
控え柱とデッキ上のハイパーテーションをうで木にてつなぎ合わせ、φ4×16トラスビスにて固定します。ハイパーテーション側に取付ける控え柱うで木用ブラケットの高さは、控え柱を250mm埋込んだ高さに合わせて取付けてください。控え柱は、250mm埋込みモルタルでしっかりと固定してください。



8) 高さ1800用埋込み柱の取付

① 柱はデッキ材貫通となります。柱が貫通する部分のデッキ材を切欠いてください。(コーナー部等で、大引きも切断する必要があります。)

柱のセンター間で800mmとなります。デッキ材端部の柱は、端部より柱センターまで173mm以上離してください。

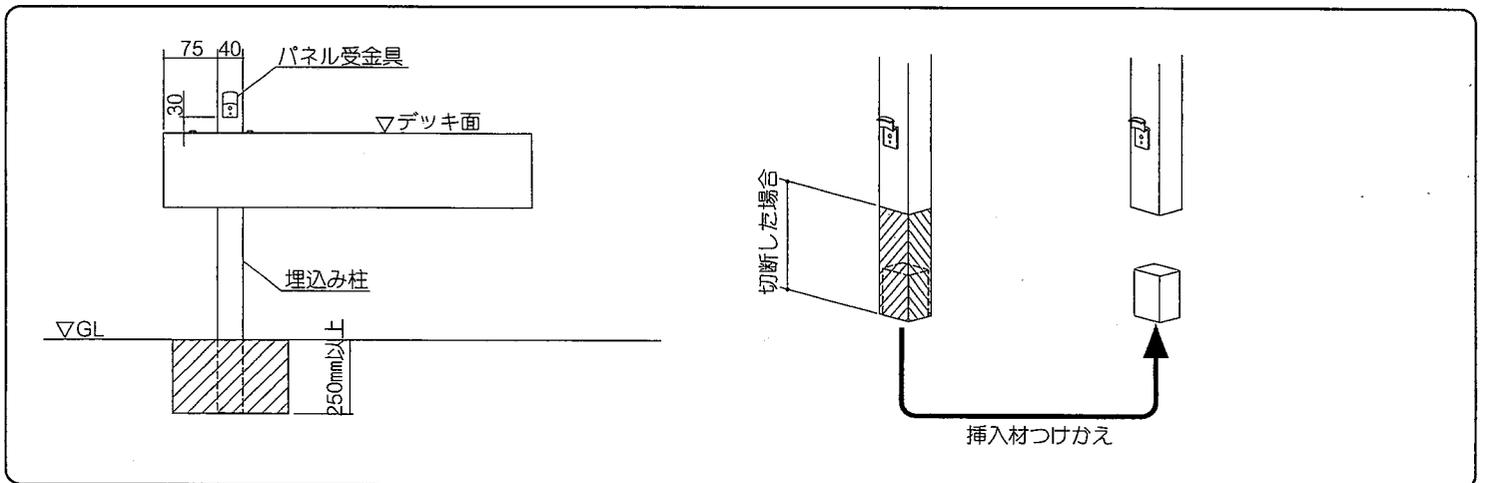


② 埋込み柱の埋込み部分は、250mm以上として下さい。

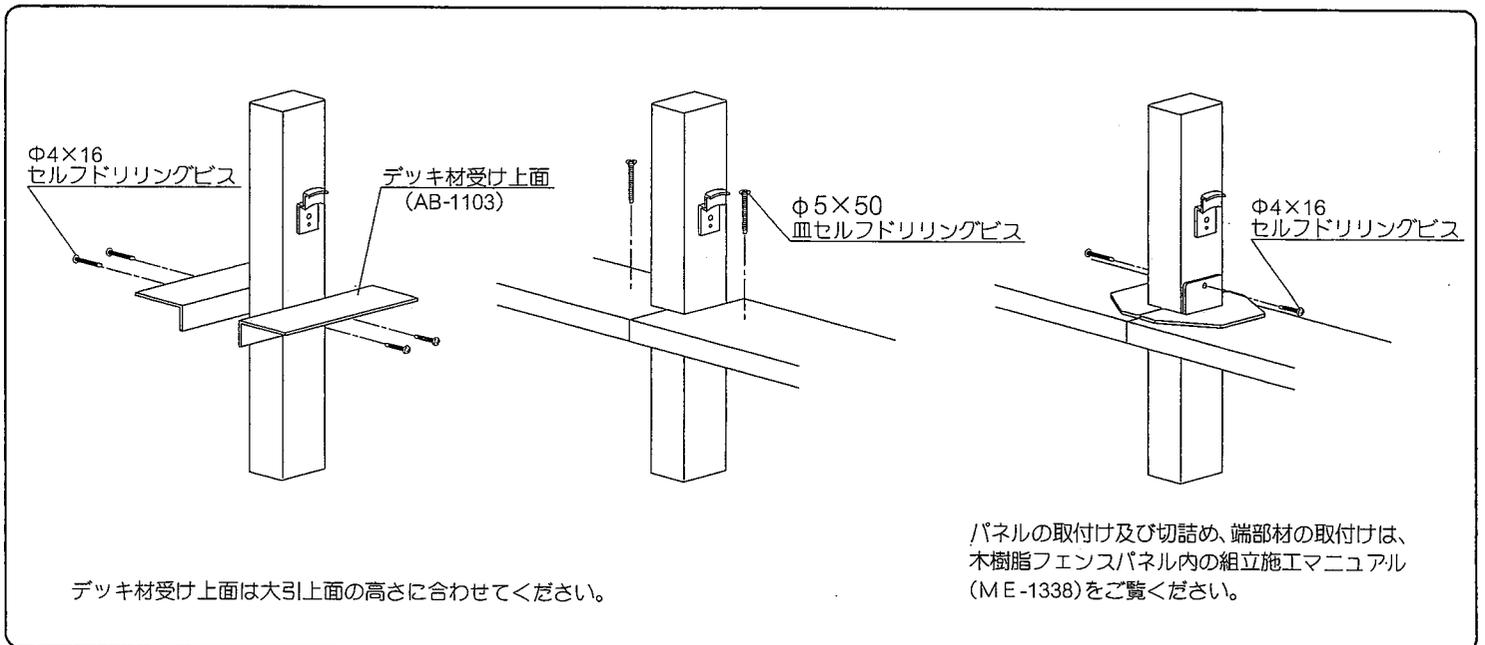
柱は、デッキ長束柱使用時にも対応できるような長さとなっております。

柱の埋込みが250mm以上確保できれば、柱下部を切断してもかまいませんがこの時、柱最下部の挿入材を必ずつけかえて下さい。

埋込み柱の高さは、柱についているパネル受金具の下端からデッキ面までが、30mmとなるようにしてください。



③ 埋込み柱にデッキ材受けを2つに切断して取付け、その上に切り欠き加工したデッキを固定し、さらにカバーを取付けてください。



パネルの取付け及び切詰め、端部材の取付けは、木樹脂フェンスパネル内の組立施工マニュアル (ME-1338) をご覧ください。

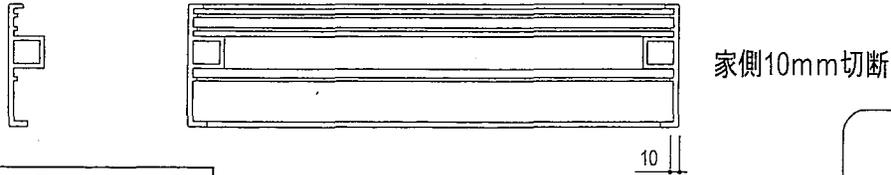
5. 鼻かくしの取付

1) 鼻かくしの加工

鼻かくしを取付ける方向別に下图の加工図にならい切断してください。

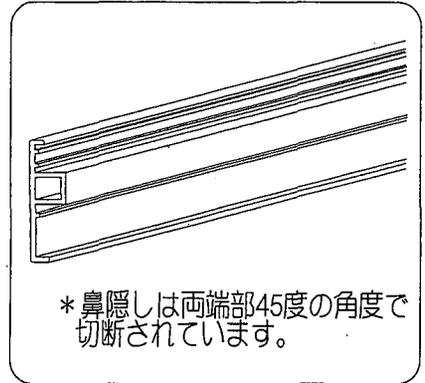
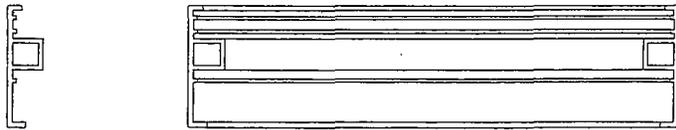
出幅方向に取付ける鼻かくし

- 単体、連棟にかかわらず、下图のように加工してください。切断は必ず家の壁と取り合う側を切断してください。(デッキ独立タイプの場合は鼻隠しを切断する必要はありません。:規格寸法納まりの場合。)

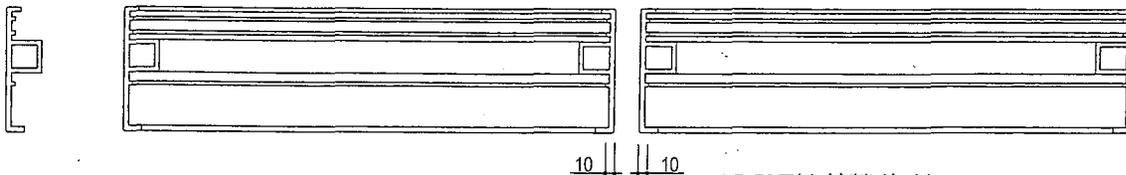


間口方向に取付ける鼻隠し

- 単体の場合は鼻隠しを切断する必要はありません。(規格寸法納まりの場合)



- 連棟の場合は鼻隠しが突合わせになる側を切断してください。



- *鼻隠し連棟時に鼻隠しの表面が合わない場合は、根がらみを50mmほど切断した物を鼻隠しの裏面にあて、鼻隠し正面よりビス止めすることで面を合わせることができます。

φ5×50皿ネジ7°リングスクリュー

根がらみ切断材

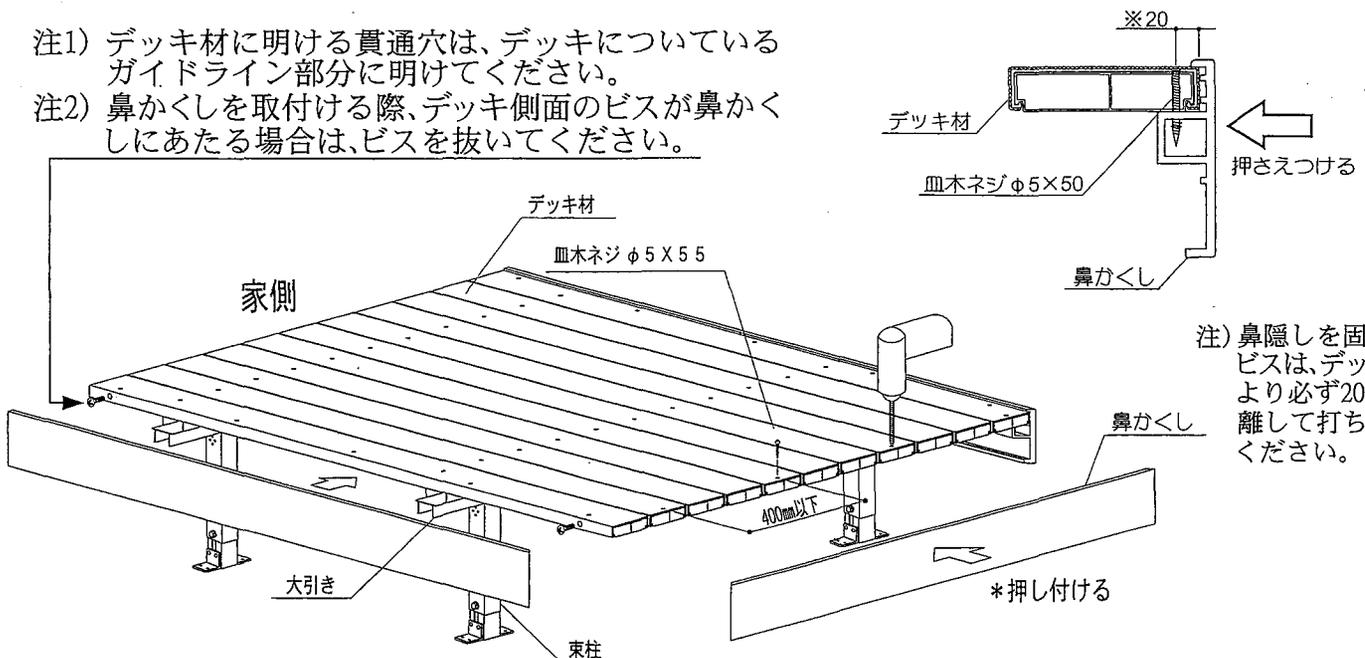
2) 鼻かくしの取付け

デッキ材に、デッキ端部より20mmの部分に孔ピッチ400mm以下にてφ6の貫通孔を明けます。

デッキ材の木樹脂部分のみφ9のざぐり加工をしてください。鼻かくしをデッキ材に押しつけ、デッキ上部より皿木ネジφ5×55でデッキ材に固定します。

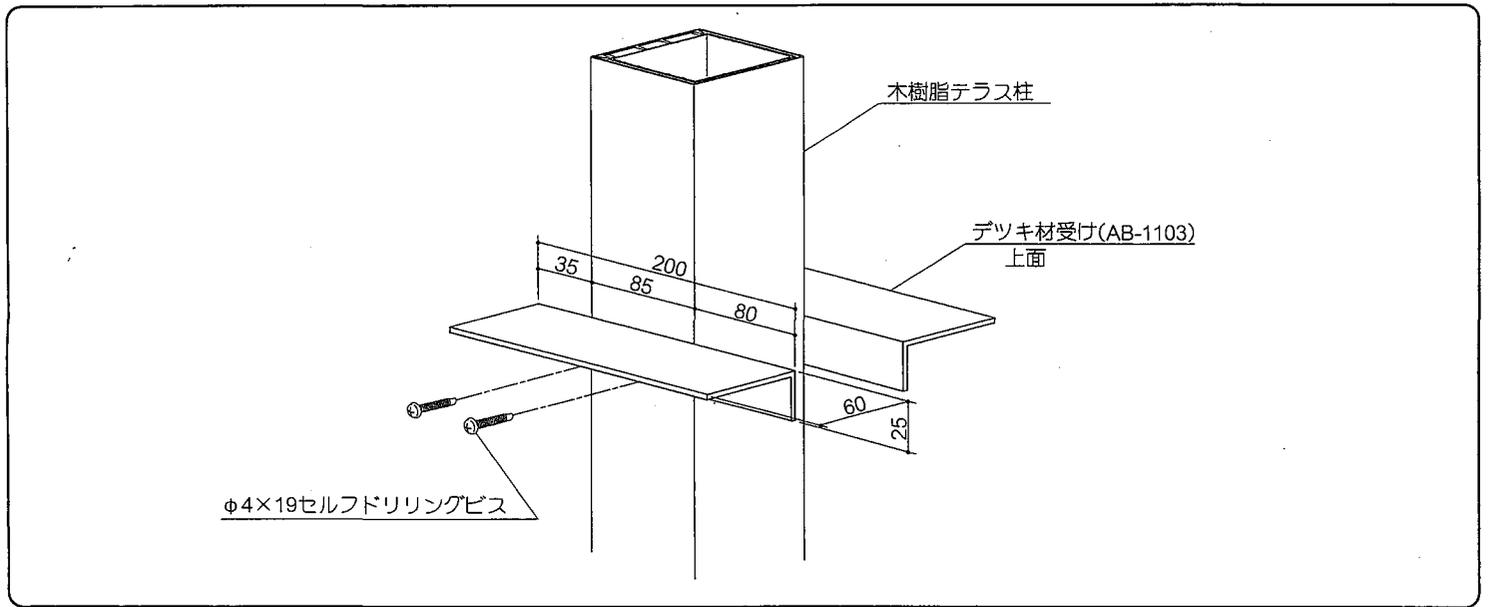
注1) デッキ材に明ける貫通穴は、デッキについているガイドライン部分に明けてください。

注2) 鼻かくしを取付ける際、デッキ側面のビスが鼻かくしにあたる場合は、ビスを抜いてください。



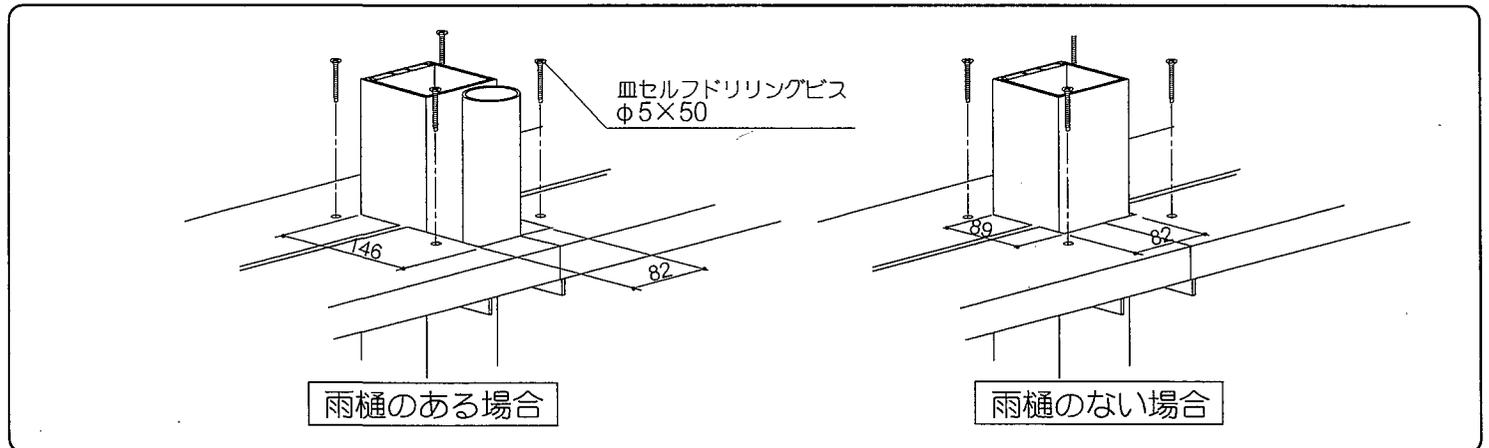
6. 木樹脂テラスとの接続

- 1) 木樹脂テラス柱にデッキ材受けをφ4×19セルフドリリングビスにて取付けてください。
デッキ材受けの上面は、大引上面の高さに合わせてください。



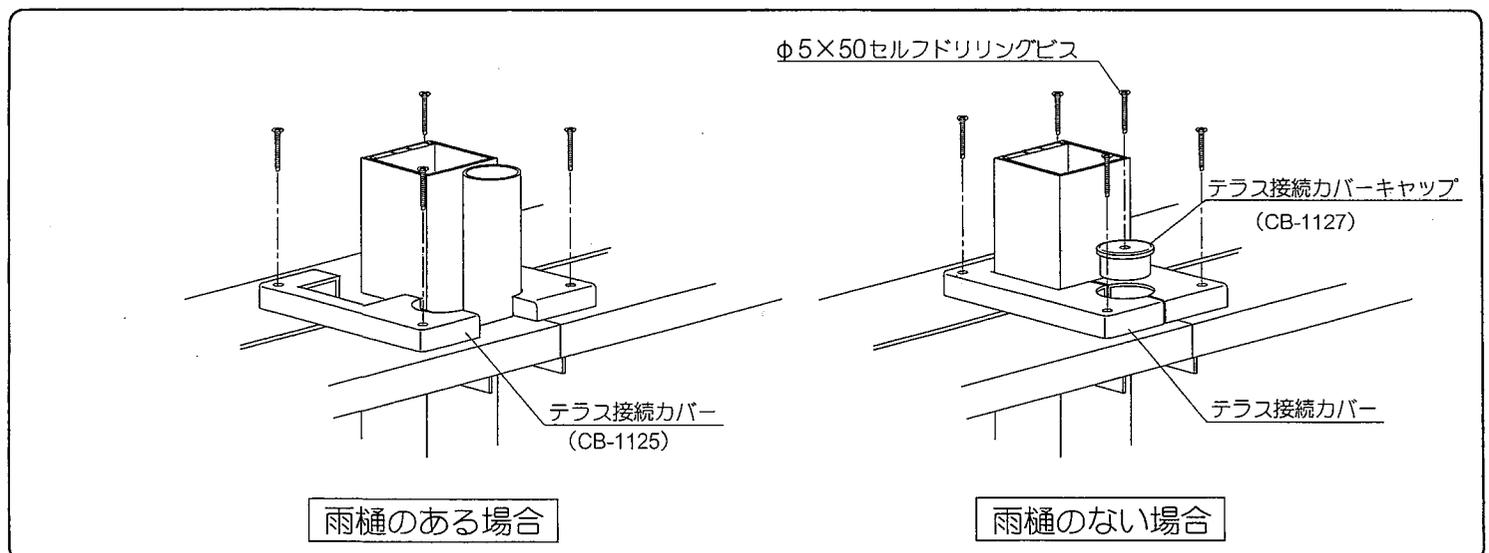
2) デッキ材の固定

- デッキ材は、雨樋のある場合、ない場合について、下図のような寸法で切断加工をしてください。
デッキ材をデッキ材受けに皿セルフドリリングビスφ5×50にて固定してください。
ビスを打つ際には、φ4の貫通孔及びデッキ材樹脂部にφ7のザグリ加工をしてください。



3) テラス接続カバーの取付け

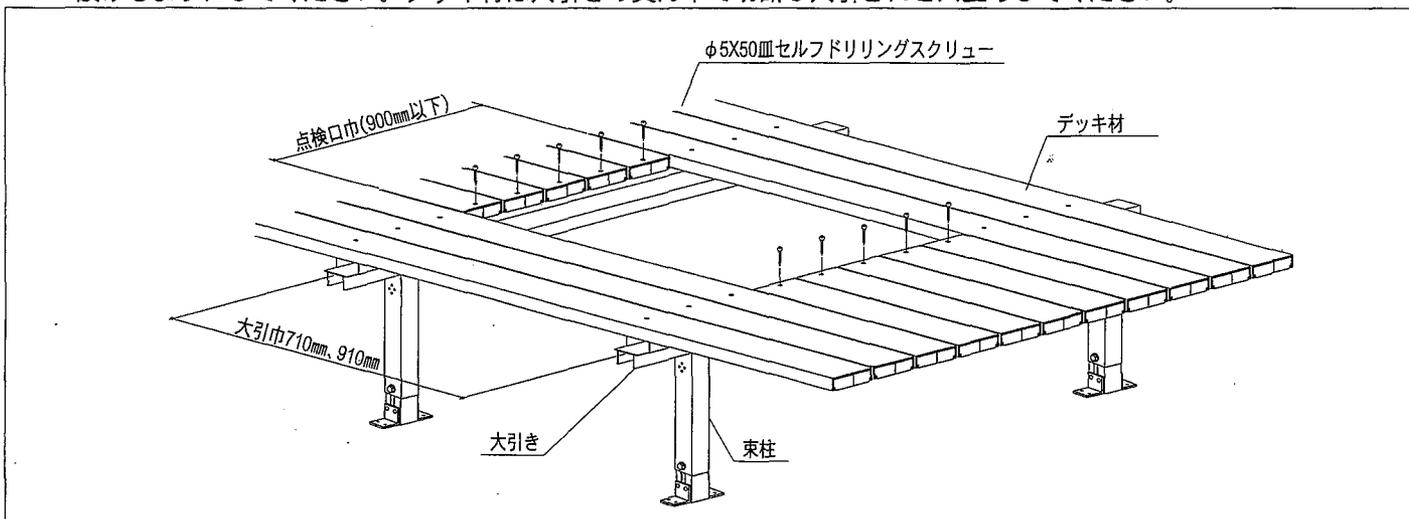
- テラス接続カバーを皿セルフドリリングビスφ5×50にて固定してください。



7. 点検口の組立

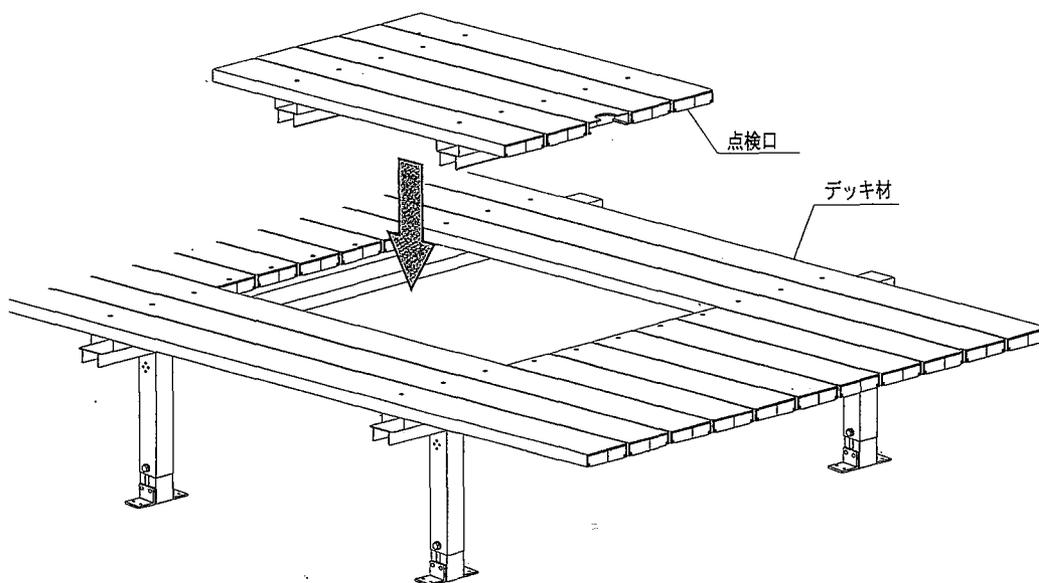
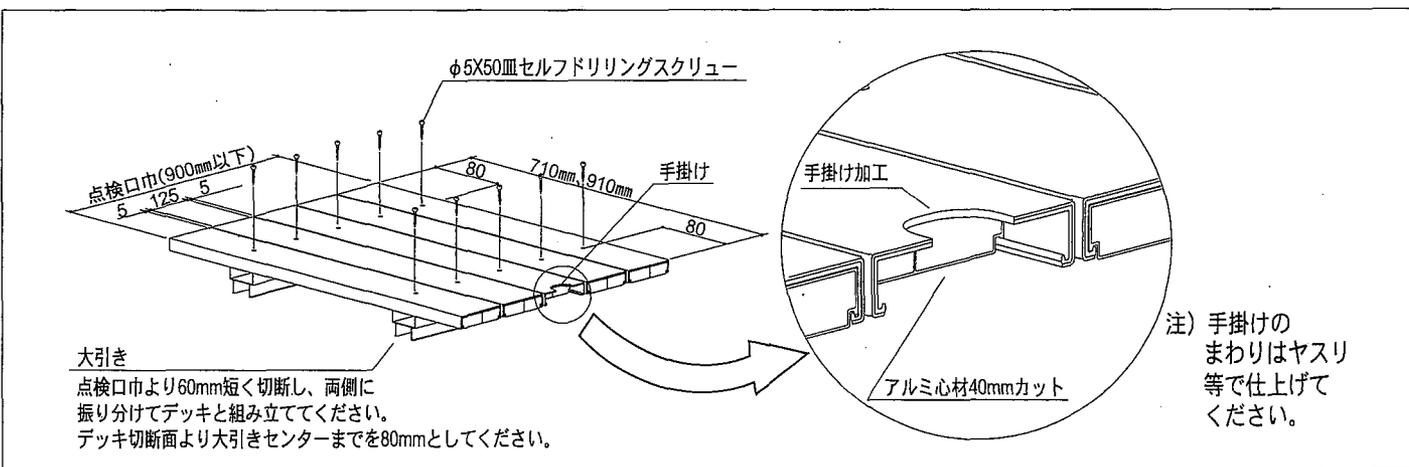
1) 点検口部分のデッキ材の加工

点検口を設ける部分のデッキ材を切断してください。点検口は大引きと大引きの間だけに設けるようにしてください。デッキ材は大引きの真ん中で切断し大引きにビス止めしてください。

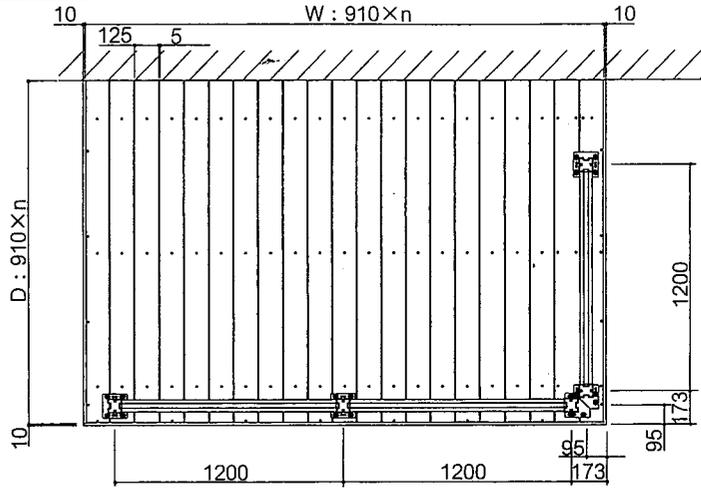


2) 点検口蓋の作成

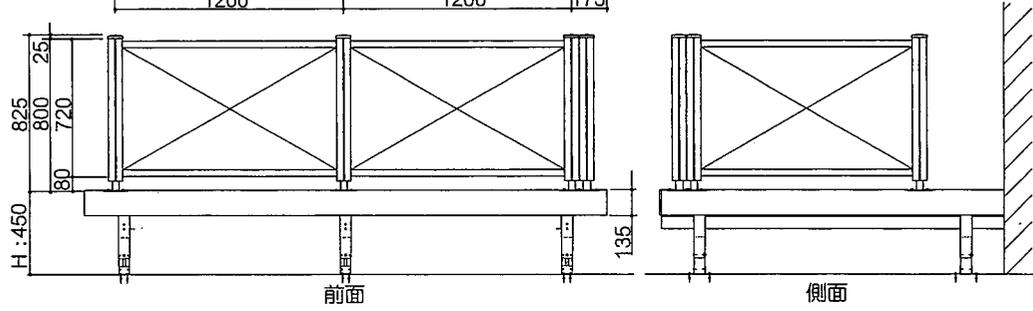
デッキ材を上図の大引き巾 (710mm, 910mm) に、大引きを点検口巾より60mm短く切断し、デッキ取付用ビスでデッキ材と大引きを組立てください。(ビスを打つ時は下穴、ざぐり加工をしてください。) また、手掛けを付ける場合は木樹脂カバー材からアルミの心材を引き抜き、アルミの心材を40mm切断してください。さらに樹脂部分を図のように加工してください。(樹脂部分は加工後ヤスリ等で仕上げてください。)



8. 納まり図

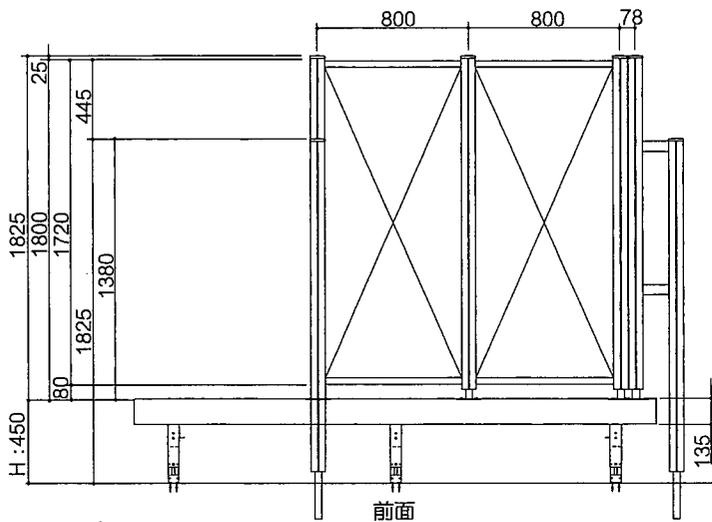


デッキ・フェンス納まり図

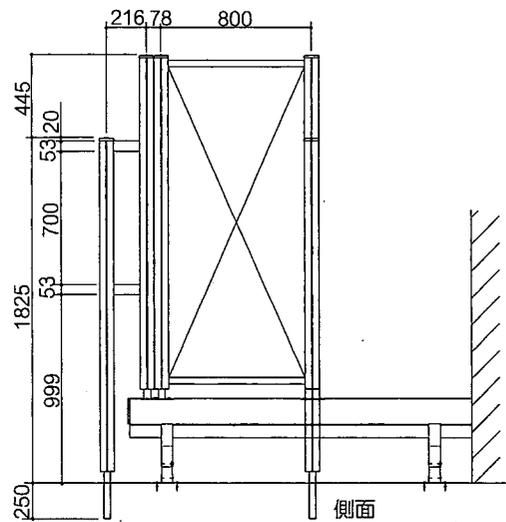


前面

側面

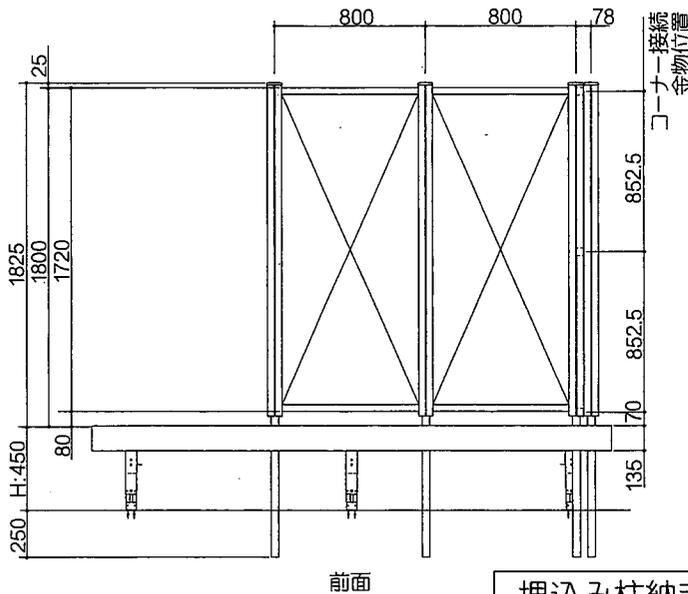


前面



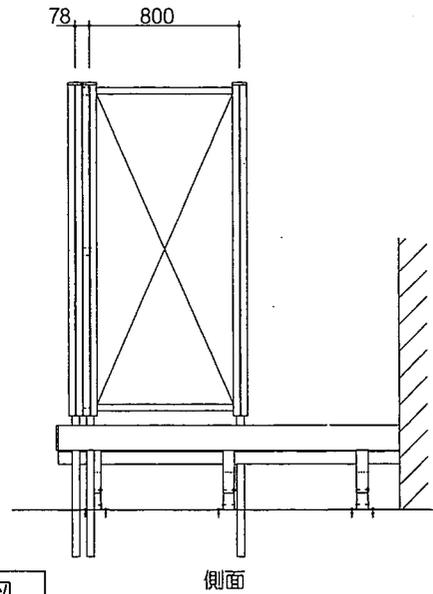
側面

デッキ・ハイパーテーション納まり図



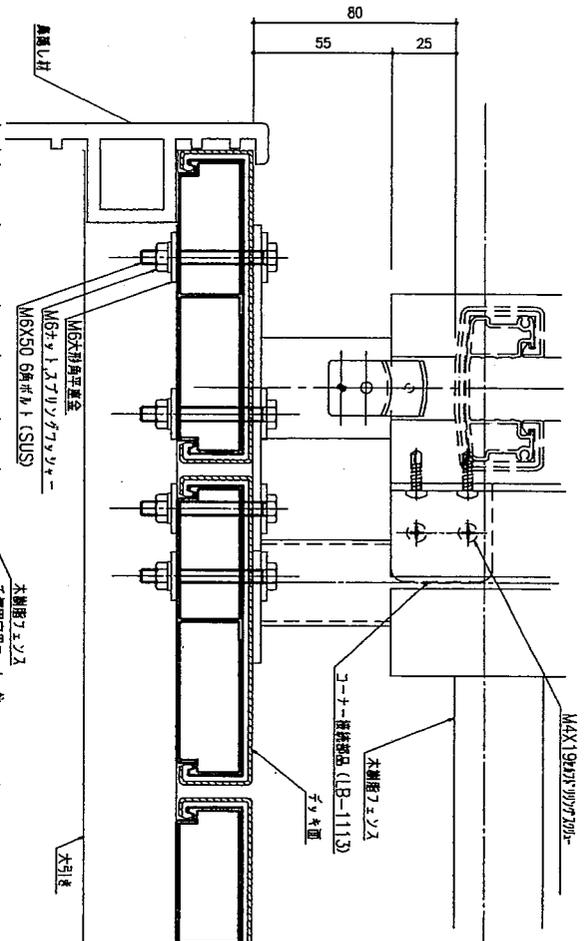
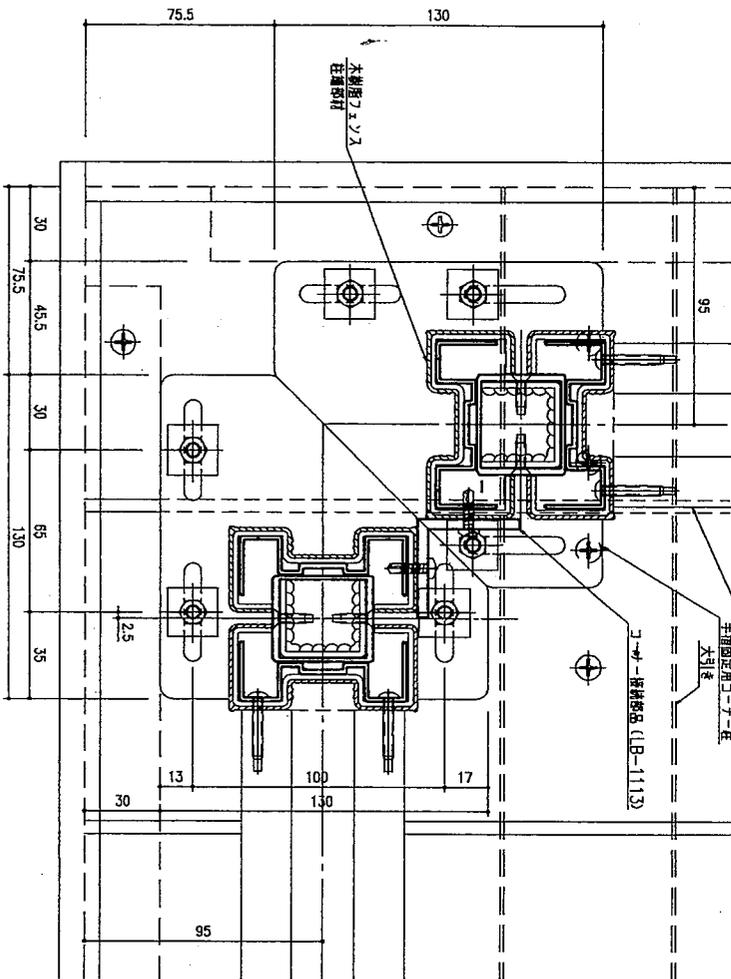
前面

埋込み柱納まり図

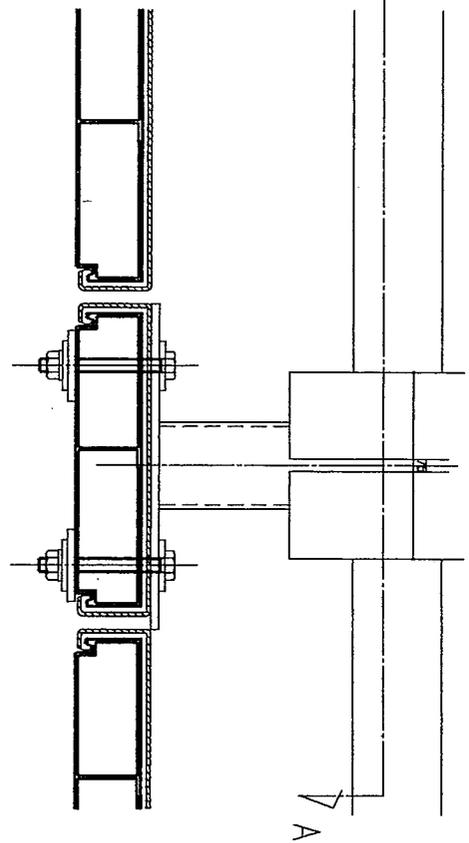
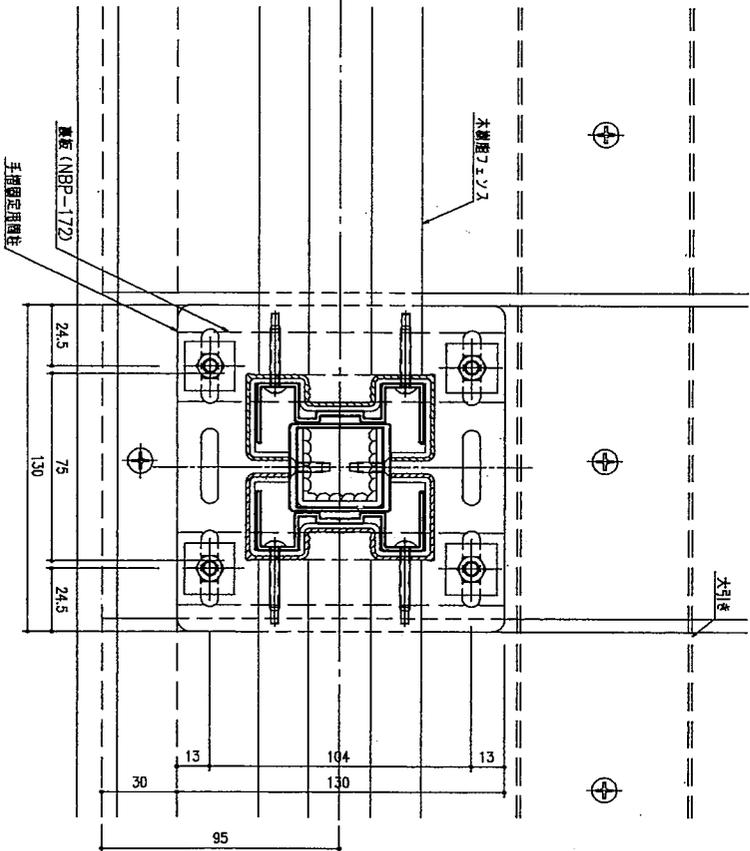


側面

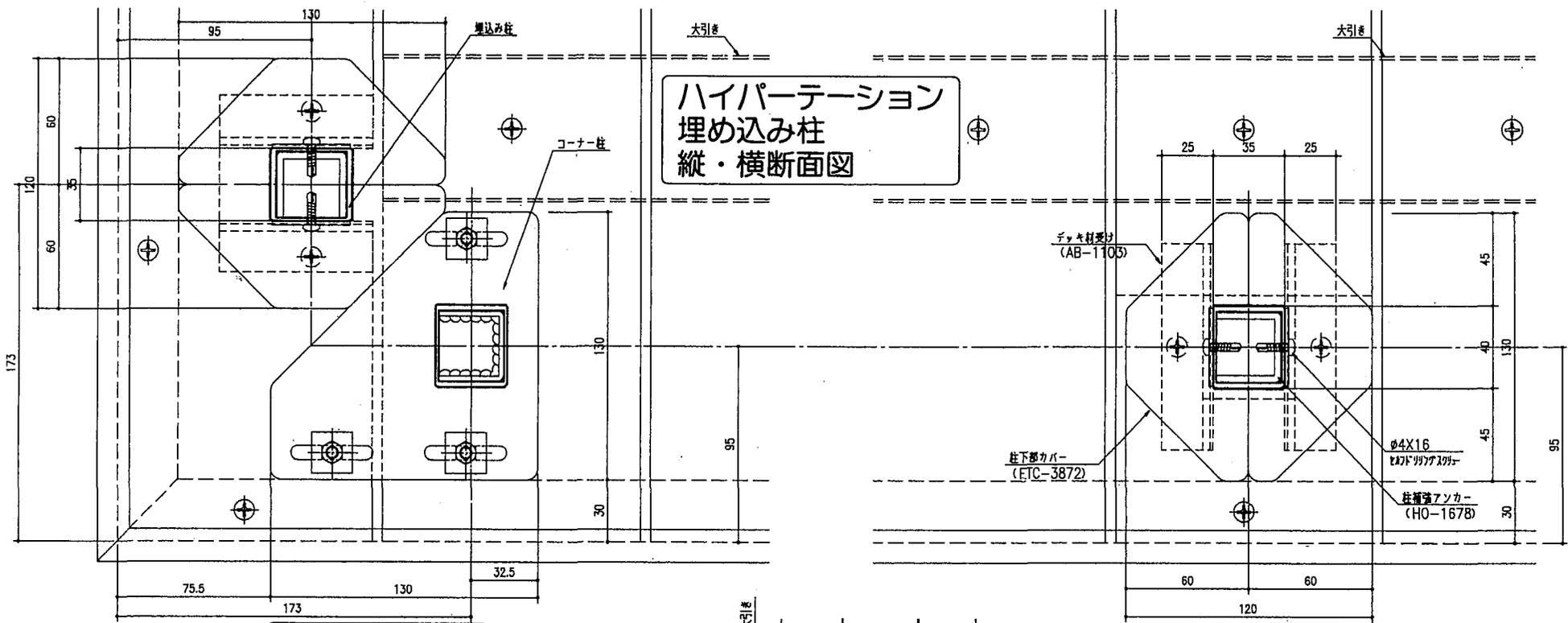
手摺用柱納まり図



断面図

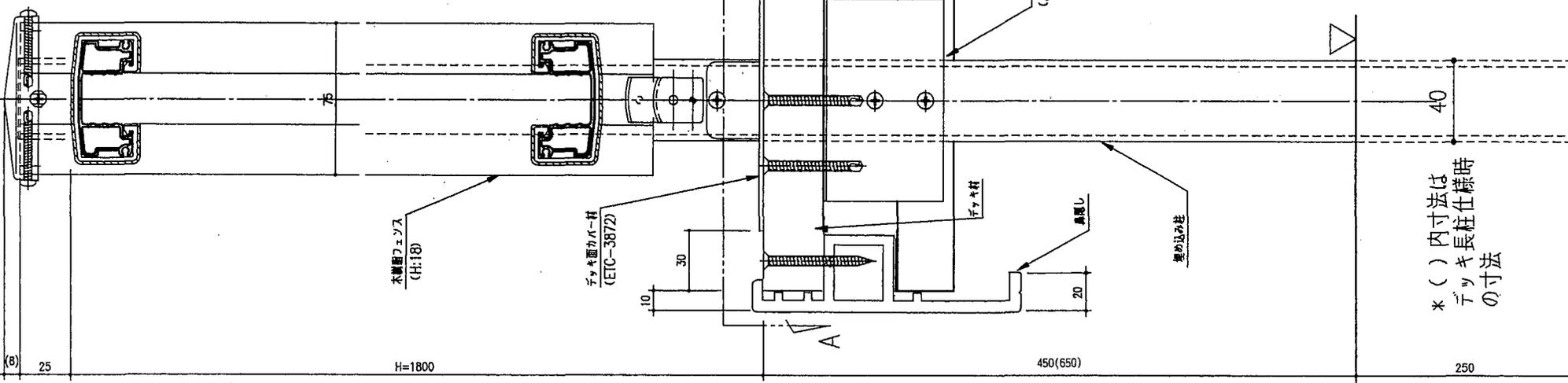


ハイパーテーション
埋め込み柱
縦・横断面図



A断面図コーナー部

A断面図標準部



* () 内寸法は
デッキ材長仕様時
の寸法

9. 施工工事店様、販売店様へのお願い

—お願い—

この説明書は施工完了後、下記の欄へ必要事項を記入してお施主様へお渡しください。

施工完了日	年	月	日
施工工事店	TEL () -		
販売店	TEL () -		
商品名			

この商品についてのお問い合わせ、ご相談は下記の窓口でも承っておりますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

●ネットワーク

新日軽株式会社

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-1
(ゲートシティ大崎ウエストタワー)

お客様商品相談室

フリーダイヤル 0120-37-2534

東日本エクステリア支店 03-5759-2211

〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-1
(ゲートシティ大崎ウエストタワー23F)

・市場開発課 03-5759-2210
・景観課 03-5759-2212

西日本エクステリア支店 06-6380-9275

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-34
(江坂第一ビル1F)

・市場開発課 06-6380-9275
・景観課 06-6380-9281

九州エクステリア支店 092-482-8581

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-9-11
(山善福岡ビル5F)

札幌支店 011-219-7511

東北住宅建材支店 022-297-3364

北越住宅建材支店 076-237-0122

長野支店 026-224-2878

北関東支店 027-328-2881

埼玉支店 048-684-8680

東関東支店 043-247-1251

東京支店 03-5759-2216

横浜支店 045-641-3381

静岡支店 054-289-6117

名古屋支店 052-731-1911

大阪支店 06-6390-1331

岡山支店 086-243-1243

中国支店 082-544-4134

四国支店 087-833-7611

九州支店 092-712-8191

特需営業総括部 03-5769-8033

●電話番号、住所は移転等やその他の理由で変更になる場合があります。ご了承ください。